

# 2024 年度 事業報告書

# 1. 法人の概要

## 1. 設置する学校・学部・学科・研究科

長浜バイオ大学	大学院	バイオサイエンス研究科
	バイオサイエンス学部	フロンティアバイオサイエンス学科
		アニマルバイオサイエンス学科
		バイオデータサイエンス学科

## 2. 当該学校の入学定員・入学数および収容定員・在籍数の状況

(2024年5月1日現在・在籍数には留年生を含む)

### 【大学院 バイオサイエンス研究科】

#### ○博士課程前期課程

入学定員	36名	1～2年生の収容定員	72名
入学数	38名	在籍数 1年生	38名
		在籍数 2年生	49名
		計	87名

#### ○博士課程後期課程

入学定員	5名	1～3年生の収容定員	15名
入学数	1名	在籍数 1年生	1名
		在籍数 2年生	1名
		在籍数 3年生	3名
		計	5名

### 【バイオサイエンス学部】

#### ●フロンティアバイオサイエンス学科

(2019年度よりバイオサイエンス学科から名称変更)

入学定員	118名	1～4年次生の収容定員	480名
編入学定員 (3年次時)	4名	在籍数 1年次生	85名
入学数	84名	在籍数 2年次生	90名
		在籍数 3年次生	74名
		在籍数 4年次生	97名
		計	346名

#### ●アニマルバイオサイエンス学科

入学定員	50名	1～4年次生の収容定員	200名
入学数	55名	在籍数 1年次生	58名
		在籍数 2年次生	59名
		在籍数 3年次生	47名
		在籍数 4年次生	42名
		計	206名

## ● バイオデータサイエンス学科

(2024年度よりメディカルバイオサイエンス学科から名称変更)

入学定員	70名	1～4年次生の収容定員	280名
入学数	35名	在籍数	1年次生 39名
			2年次生 29名
			3年次生 29名
			4年次生 57名
		計	154名

### 3. 役員・教職員の概要 (2024年5月1日現在)

役員		教職員	
理事	9名	教員	56名 (教授28、准教授11、講師3、助教6、助手8)
監事	2名	職員	34名
計	11名	計	90名

### 4. 建学の理念

本学は、前身である京都人文学園から受け継いだ、「平和とヒューマニズムを何よりも尊び、豊かな人間性と科学的合理性を兼ね備えた『行動する思考人』の育成」を教育理念としています。

### 5. 大学の目的

本学は、新時代に相応しい豊かな人間性と幅広い教養を涵養し、科学的合理性に富む最先端のバイオサイエンス専門技術の教育を行います。もって、生命科学の時代と言われている21世紀において、時代を切り開く視野と創造性、高いバイオサイエンスの専門知識と技術力を身に付けた人材を養成することと、世界トップレベルのバイオサイエンス研究を行い、学術文化の発展に寄与すること、および、地域社会の発展や産業の振興、国際交流の発展に貢献することを目的としています。

### 6. 法人の沿革

- 2002年12月 ・学校法人関西文理総合学園認可
- ・長浜バイオ大学バイオサイエンス学部バイオサイエンス学科認可
- 2003年4月 ・長浜バイオ大学バイオサイエンス学部バイオサイエンス学科開学
- 2006年11月 ・長浜バイオ大学大学院バイオサイエンス研究科認可
- 2007年4月 ・長浜バイオ大学大学院バイオサイエンス研究科開学
- 2009年4月 ・アニマルバイオサイエンス学科開設
- ・コンピュータバイオサイエンス学科開設
- 2015年4月 ・臨床検査技師養成プログラム設置
- 2018年度 ・JABEEプログラム認定(日本技術者教育認定機構)

- 2019年4月
  - ・メディカルバイオサイエンス学科開設
  - ・バイオサイエンス学科をフロンティアバイオサイエンス学科に名称変更
  - ・コンピュータバイオサイエンス学科募集停止
- 2019年7月
  - ・長浜バイオ大学ゲノム編集研究所開設
- 2023年3月
  - ・コンピュータバイオサイエンス学科廃止
- 2024年4月
  - ・メディカルバイオサイエンス学科をバイオデータサイエンス学科に名称変更

## II. 長浜バイオ大学事業報告

### 【1-1】教育活動（学部）

本学の教育理念及び目的に基づき、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針—卒業までに身につけるべき能力）、カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）を定め、教育カリキュラムを編成している。ディプロマ・ポリシーは、学生が学士の学位を授与されるための到達目標であり、到達目標を達成するために教育カリキュラムの構成科目にそれぞれの役割と教育目標を設けている。学生はこの教育カリキュラムの構成科目の履修を通じて、定められた教育目標を達成していく過程でディプロマ・ポリシーを実現していく。教育カリキュラムの実施に当たっては、専門知識、技術を系統的に教授するとともに、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養することにより、長浜バイオ大学の学士にふさわしい人材の育成を図っている。

#### 1. 学部卒業生数

教育カリキュラムに基づき、学生の履修登録とその指導、定期試験と成績評価、進級判定、卒業判定に係る業務を行い、2024年度は以下の卒業生を送り出した。

2024年度 学部卒業生数	186名
フロンティアバイオサイエンス学科	93名
アニマルバイオサイエンス学科	40名
メディカルバイオサイエンス学科	53名

#### 2. 教育カリキュラムの実施

2024年度よりメディカルバイオサイエンス学科をバイオデータサイエンス学科に名称変更し、フロンティアバイオサイエンス学科、アニマルバイオサイエンス学科の3学科構成からなるカリキュラムを適正に遂行した。加えて、データサイエンス分野の教育を充実させ、文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」応用基礎レベルの認定を得るべく「バイオ MDASH スター制度」を開始した。初年度となる2024年度は89名が「☆3レベル（基礎）」を修了した。

授業の実施について、担当教員が各科目の開始時にルーブリック評価表を学生に提示し、学生自身が自分の学習活動を評価できるように促した。ルーブリック評価表には、シラバスに記載された到達目標に対して、学生自身がどの程度まで努力すればどのような評価がもらえるかを明示している。

2022年度から科目ナンバリング制度を導入した。科目ナンバリングは、教育課程のカリキュラム体系が容易に理解できるように、科目間の連携や科目内容の難易を表す番号をつけ、カリキュラムの構造を分かりやすく明示する仕組みである。全ての科目を「学問分野」・「授業の難易度」・「授業形式」等で分類し、分類に対応した記号と番号を振り、科目ナンバーを付番する。このことにより、学生はどの科目から履修していけば

良いのか、教育課程全体の中でその科目がいかなる位置にあるのかが明確にわかり、計画的な学修の一助になるものである。さらに、学部・学科のディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに相応しい科目構成となっているか、分野に偏りがいないか等について点検を行い、順次性のある体系的なカリキュラムを構築していることを確認する内部質保証業務の効率化を図るうえでも有用である。

### 3. JABEE（日本技術者教育認定機構）認定に向けた取り組み

JABEE 認定プログラムとして「先端生命科学コース」「医療生命科学コース」「動物生命科学コース」を設定し、それぞれに学習・教育到達目標を設けると同時に、成績評価に関わる基準を明確に示している。2023年10月にJABEEの認定審査を受審し、6年間の認定を受けることができた。この認定は、長浜バイオ大学の教育カリキュラムが、技術者に期待される学士レベルの基礎教育として妥当であることを示すものである。

2024年度JABEE認定プログラム修了生は121名であった。この修了生には卒業時に「JABEE認定プログラム修了証」を授与した。

また、新たにJABEE認定プログラムを希望した2024年度入学生のうち、本学のJABEE履修基準に則り57名をJABEE履修生として許可した。

### 4. 臨床検査学カリキュラム

2025年2月、臨床検査学カリキュラム第7期生が臨床検査技師国家試験を受験し、18名が合格した。

### 5. 実験動物技術者資格取得に向けた取り組み

本学は、日本実験動物協会から実験動物技術者受験資格認定校の資格を受けており、在学中に実験動物技術者認定試験を受験することができる。アニマルバイオサイエンス学科では2012年度より丁寧な実験動物技術者試験対策を行っており、着実に合格の実績を伸ばしている。2024年度は1級4名、2級29名が合格した。

### 6. 語学力強化に向けた取り組み

本学の教育目標の一つとして掲げている「語学力の向上」の実現を図るため、クラス編成テストにTOEIC Bridgeテストを導入している。テストの成績データを基に学力到達度別クラス編成を行い、教育効果の高い授業の実施につなげた。さらにTOEICのデータを分析することで語学力強化を図るための本学英語教育の課題を発見し、教育内容の改善にむけた検討をすすめた。

### 7. 教育支援

1年次基礎実験、2年次応用実験、3年次専門実験、「コンピュータ基礎実習」「コンピュータ応用実習」、および臨床系の実習にTAを配置し、本学の基幹科目である実験・

実習において教育効果の向上を図った。尚、TA 制度は大学院生への経済的支援という目的もあるが、自らの研究活動に支障をきたすことがないように、定められた制限時間数以下になるよう採用している。また、受講生数が多い講義科目「大学での学びと実践方法Ⅰ」「エッセンシャル生物学Ⅰ」「サイエンスイノベーション入門」「エッセンシャル化学Ⅰ」「エッセンシャル生化学Ⅱ」「エッセンシャル生物学Ⅱ」「生産管理システム」「大学での学びと実践方法Ⅱ」においては、SA を導入し、教育支援を行った。

## 8. FD 活動

教員個々人の教育力を高めるため、また、組織的な教育力を高めるために以下の FD 研修会を行った。

・2024 年 7 月 22 日（月）

「科研費獲得の方法とコツ：事例とポイントでわかる採択されるための申請書の書き方」

ジーラント株式会社代表取締役 久留米大学客員教授 児島将康氏

参加者：教員 35 名 大学院生（修士・博士）3 名 本学研究員 2 名 合計 40 名

・2024 年 9 月 10 日（火）

「ハラスメントのない快適な教育研究環境をつくろう～良好な教え教えられる関係づくり～」

NPO 法人アカデミックハラスメントをなくすネットワーク

代表理事 御輿久美子氏

参加者：教員 40 名、職員 27 名、他大学教職員 5 名 合計 72 名

・2024 年 11 月 6 日（水）

「ハラスメント防止研修 学生指導における留意点」

名古屋大学ハラスメント相談センター相談員

臨床心理士・公認心理士 内川菜月氏

教員 29 名、大学院生・学部生 24 名、本学研究員 1 名 合計 54 名

## 9. 主体的な学びの育成

主体的な活動を通じて自立的行動規範を身につけることを目的として、「バイオ実験夢チャレンジ」をカリキュラムに 1 年次配当科目として配置し、学生が主体的にバイオサイエンスを学ぶ力の育成を図った。

## 10. キャリア教育

社会で生き抜いていくための力や社会に出て働くために必要となる力の育成を図るために「地域連携学習」や「キャリアデザイン」などの科目を配置し、時代に即したキャリア教育の実現に努めた。

## 【1-2】教育活動（大学院）

大学院のディプロマ・ポリシー（学位授与方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）に則り、バイオサイエンス研究科博士課程前期課程では、教育・研究を通してバイオサイエンスの知識に裏打ちされた問題発見解決能力と自然に対する崇高な倫理観を持ち、社会を支え国際社会でも活躍しうる人材育成を目指している。

バイオサイエンス研究科博士課程後期課程では、バイオサイエンス分野における高度の知識と技術を習得し、人々の福祉と幸福の向上に貢献する様々な分野で指導的役割を担う高い能力を持った研究者、技術者および教育者の育成を目指している。

### 1. 大学院修了生数

大学院開設 18 年目にあたる 2024 年度は、以下の修了生を送り出した。

2024 年度 博士課程前期課程修了生	38 名
2024 年度 博士課程後期課程修了生	2 名

### 2. 修了要件

<博士課程前期課程>

課程修了にふさわしい質を保証するため、単位修得に加えて修了要件を設定している。2024 年度も教員の適切な指導のもと、対象者は全員修了要件を満たすことができた。

<博士課程後期課程>

博士課程後期課程修了にふさわしい質を保証するため、修了要件を設定している。2024 年度も教員の適切な指導のもと、対象者の 2 名ともに修了要件を満たすことができた。

### 3. 大学院の教育カリキュラム

<博士課程前期課程>

博士課程前期課程では、国内外における大学院生の将来の活躍に資するために、より広い視野にたつ思考力とプレゼンテーション能力を涵養していくことを目的とし、アクティブラーニングを基盤とした演習科目「分子バイオテクノロジー特別演習」「統合バイオテクノロジー特別演習」を実施した。授業アンケートから見ても学生の講義への積極的な参加が窺われ、思考力とプレゼンテーション能力の向上につながった。

<博士課程後期課程>

博士課程後期課程では、より高い到達点を目指すために、夏期集中形式で英語によるプレゼンテーションやディベート能力を重視した修了要件を付加する新カリキュラムを実施した。夏期の研究報告会では、博士課程後期課程学生が英語で口頭発表をおこなった。

## 5. 連携大学院の取り組み

タカラバイオ株式会社との協定に基づく連携大学院の取り組みの一つとして「タカラバイオ実践バイオインフォマティクス」科目を設置している。従来の実施方法を見直し、より実りある実践的な講義実習にするべく、前半は長浜バイオ大学計算機実習室での演習形式、後半はタカラバイオ株式会社での実践的解析作業形式で行った。

## 【2】研究支援活動

### 1. 外部資金の獲得支援

#### (1) 学内共同研究助成制度と研究助成制度の実施

学内共同研究助成と学内研究助成について、2023年度より多くの教員の科研費採択に向けて、また学内での共同研究を強化する目的で実施し、更なる学内研究の推進を図った。2024年度は学内共同研究助成3件と研究助成制度6件を助成した。

#### (2) 各種外部資金の公募情報提供

各種財団等が募集を行っている助成金公募の案内を研究推進機構事務室より行っているが、各種の公募案内を集積して学内ホームページ上に整備・公開することで、利便性の向上と更なる活用促進を図っている。2024年度の新たな採択・受入は2件であった。

#### (3) 科研費の獲得支援

2024年度の公的研究費の受入は、科研費42件（新規4件・継続16件・期間延長6件・繰越1件・特別研究員奨励費1件・他研究機関分担14件）、日本医療研究開発機構事業1件、生物系特定産業技術研究支援センター事業1件、農業・食品産業技術総合研究機構事業1件、科学技術振興機構事業3件、滋賀県産業支援プラザ事業1件であった。

また、2025年度の科研費申請にむけての個別支援として研究推進機構事務室にて提出された申請書の形式チェックを行った。さらに、新任教員や職員を対象とした科研費の動向や研究費執行に関するセミナーを実施した。

### 2. 各種共同研究等の推進支援

#### (1) 産官学連携活動と共同研究の支援

2024年度の外部機関・企業等との共同研究等の契約締結件数（変更契約を含む）共同研究が7件、受託研究・業務委託が12件、技術指導2件であった。また、企業等からの研究活動への寄付が3件であった。

また、地域連携・産官学連携推進室と研究推進機構事務室との連携で、企業からの相談案件を全教員に向けて発信し、協力を依頼している。

#### (2) 学内共同研究助成・研究助成成果報告会の開催

2024年6月25日、8月27日の2日間で開催し、学内共同研究助成5課題、研究助成6課題の研究成果報告会を行った。

#### (3) バイオセミナーの開催

2024年度は、全てのセミナーを対面で全7回を実施した。

- ・2024年4月23日「小事が大事：下垂体研究の紹介」（小川 秀一郎 講師）
- ・2024年6月25日 2023年度学内研究助成 成果報告会（6名）
- ・2024年7月23日「核酸標的的低分子創成の課題と展望（機械学習による Focused Library Prediction の可能性）」（大阪大学産業科学研究所・中谷 和彦 教授）

- ・2024年8月27日 2023年度学内共同研究助成 成果報告会（5名）
- ・2024年9月24日「さかなの色を細胞レベルで鑑賞する」  
（リージョナルフィッシュ株式会社 研究開発部・主任研究員・橋本 寿史 氏）
- ・2024年10月29日「環境 DNA からの新規 CRISPR-Cas の発見」（長浜バイオ大学・ゲノム編集研究所兼任研究員・九州大学名誉教授・石野 良純 客員教授）
- ・2024年11月26日「“製薬”業界 概論」（AGC株式会社・ライフサイエンスカンパニー・バイスプレジデント・村田 博 氏）

### 3. 研究費の執行管理

2024年度の研究費の執行管理として、科研費が全42件（うち基盤B6件、学術変革領域研究A3件、基盤C12件、挑戦的研究・萌芽1件、若手研究4件、研究スタート支援1件、特別研究員奨励費1件、他研究機関分担金14件）、外部資金としては、科学技術振興機構（JST）などの委託研究が8件、民間企業などとの共同研究7件、受託研究3件、業務委託3件、技術指導2件、補助金3件、奨学寄付金20件について、資金の予算執行管理を研究推進機構事務室が担い、各教員への個別支援を実施した。

### 4. 教育研究等環境の整備

共通研究機器の維持管理として、管理責任者のもとに管理者を設け機器の運用状況について詳細に把握をするとともに、故障によりメンテナンスが必要な場合には、共通研究機器運営委員会にて審議を行い研究設備や環境の整備を行った。

また、文科省の補助事業である「私立学校等施設整備補助金」に研究設備として共焦点レーザー走査型顕微鏡を申請し採択され整備に至った。

### 5. 知的財産権の獲得支援

2024年度は、共同出願を含む新規出願を3件行った。2024年度に登録（成立）された特許は4件あった。

### 6. 外部研究機関等との研究交流

- (1) バイオビジネス創出研究会（長浜バイオインキュベーションセンター）との連携  
「バイオビジネス創出研究会」は、本学隣に設置されている長浜バイオインキュベーションセンターを活動拠点として、本学のシーズ技術を基に新たなバイオ産業を長浜市に創出するための活動を進めている。

また、本学に隣接する長浜サイエンスパークの入居企業で構成される「長浜サイエンスパーク運営協議会」の会長に本学産官学連携推進室長が就任し、担当事務局に本学研究推進機構事務室が参画するなど、運営面より本協議会への貢献を進めている。

さらに、「長浜アカデミックサポートチーム（NAST）」に本学教員が参画し、企業への本学の研究内容の紹介、および企業からの技術相談や企業への移転可能なシー

ズの提案を通じて、長浜市での新たなバイオ産業創出に努めている。

#### (2) 滋賀発成長産業発掘・育成コンソーシアムとの連携

本学は、滋賀県における科学技術に特化した新産業創出の取り組みを推進することを活動のコアとする「滋賀発成長産業発掘・育成コンソーシアム」に加盟している。日常の運営部会への参画をはじめ、取り組みの一環として毎年開催されているビジネスコンテスト（滋賀テックプランター）に本学教員への参加案内を行っている。次年度のエントリーに向けて本学のビジネスシーズを発掘し、事業化に向けた支援を行った。

#### (3) KSAC や KSII などへの参画

産学連携をより強力に推進していくために、関西における起業家の裾野を拡大し、大学発スタートアップを連続的に創出していくことで世界に伍するスタートアップ・エコシステムを構築することを目的とする「関西スタートアップアカデミア・コアリション（略称 KSAC）」に参画した。また、自律的かつ持続可能なイノベーション創出基盤の整備を目的とする「関西イノベーションイニシアティブ（略称 KSII）」に参画し、産業界との接点を強化するとともに、本学の大学発ベンチャーであるノベルジェン株式会社の技術シーズの提供を行った。

新たに、技術的な課題を解決し事業化に結び付けたい企業と、先進的な研究成果をものづくり分野で実用化したい大学・高専が、お互いの得意分野や資産を活かして、協力しながらゴールを目指す「MOBIO 産学連携オフィス」に参画した。現在 39 の大学・高専（2024 年 3 月末現在）が参画しており、大学からのシーズを企業に提供して事業化につなげていくことを目指す。

#### (4) BI コンソーシアムの設立

本学と長浜バイオインキュベーションセンター、長浜ビジネスサポート協議会、専門家等と連携し、「ビジネスインキュベーション機能強化コンソーシアム」を構成した。これにより、入居企業や地域企業が抱える課題、ならびに長浜バイオ大学の技術シーズ・ニーズの共有を図り、入居企業の事業化促進、地域企業の創業支援、バイオ分野における新たなアプローチによる事業創出を目指した。2024 年度は、長浜バイオ大学および大学発スタートアップ等による「シーズ発表会」を開催し、滋賀県内企業を中心に約 50 名の参加があった。会場では活発な意見交換が行われ、産学官連携による地域産業の活性化に向けた有意義な機会となった。

### 7. 日本私立学校振興・共済事業団事業に対する申請支援

私立大学等改革総合支援事業や私立大学等経常費補助金特別補助事業など、本学の取組内容に応じた補助金申請と獲得を行った。2024 年度は改革総合支援事業（タイプ 3）PF 型に採択され、びわ湖東北部地域連携協議会への活動支援を行った。

## 8. ゲノム編集研究所による研究活動への支援

2024 年度の本研究所は、動物部門と植物部門別において、ゲノム編集技術を応用した基礎研究と応用研究を実施し、その研究の成果を紀要第 5 号にまとめ「長浜バイオ大学リポジトリ」を通じて広く一般に公開した。これにより、学内のみならず学外の教育機関や海外からもアクセスがあり注目を集めた。また、県内の企業との共同研究を継続して実施し、6 次産業化を達成する取り組みを生み出すことができた。さらに、ゲノム編集技術に関する正しい理解を促進するため、2024 年 6 月 16 日、長浜まちづくりセンターさざなみタウンにて「スイミー子育てフェスタ」が開催され本研究所からは「両生類・世界のメダカ mini 水族館」を出展した。ゲノム編集研究所の齊藤修教授、竹花佑介教授、長浜バイオ大学の堀翔悟助教、そして各研究室所属の学生 6 名が参加した。このイベントは、湖北地域の子育て支援として実施された。当日は市内の未就学児や小学校低・中学年とその家族約 2000 名が参加し、大盛況となった。また、ゲノム編集に関する簡単な解説も行い、最新の科学技術について親子で学ぶ貴重な機会となった。

また、大学院生と教員を対象に新たに兼任研究員に就任された石野良純客員教授がゲノム編集技術に関するセミナーを開催し、広範な知識共有を図るなど本学のゲノム編集研究の発展に資する研究成果を創出した 1 年となった。

- (1) 研究所としての共同研究の実施 (1 件)
- (2) 学内向け研究セミナーの開催 (「環境 DNA からの新規 CRISPR-Cas の発見」  
石野良純客員教授・ゲノム編集研究所兼任研究員、2024 年 10 月 29 日・バイオセミナーとして開催)
- (3) 湖北地域の子育て支援として「スイミー子育てフェスタ」が開催され「両生類・世界のメダカ mini 水族館」を出展  
齊藤修教授、竹花佑介教授 (2024 年 6 月 16 日)
- (4) ゲノム編集研究所紀要第 5 号の製作

### 【3】学生生活支援活動

「長浜バイオ大学の学生生活支援に関する方針」のもと、学生生活支援に取り組んだ。

1. 学生が経済的理由で修学を断念することがないように、大学独自の奨学金制度および授業料減免制度を整備するとともに、学外の奨学金制度を通じた経済支援を行う。
2. 学生の心身の健康問題に対応するため、学生相談室を設置し、専門的スキルを有するカウンセラーを配置し支援を行う。
3. 留学生の生活支援や学修支援のため、授業料減免制度や奨学金制度を整備するほか、留学生相談室を設置し、留学生支援スタッフを配置し支援を行う。
4. 新入生の修学面や生活面の不安を解消するため、学生チューター制度を整備し、大学での学習や生活面のサポートを行う。
5. 学生の人間的成長と自発的な活動を促すため、正課外の活動に積極的に取り組むことが出来るよう支援体制の整備を行う。
6. 学生の人権を保障するため、人権に関する専門委員会のもと人権相談員を配置して相談窓口を設けて、人権侵害の問題解決に必要な措置を迅速かつ適正に講じる。
7. 障がいのある学生が支援を希望し、合理的配慮の必要性があると認められた場合、関係各部署が連携して、すべての学生が共に学び合うことができるよう可能な支援を行う。また障がいの有無にかかわらず、学生が安全な学生生活を送れるよう設備環境の整備に努める。

以上

#### 1. 経済的支援（奨学金・学費減免措置）

日本人学生および留学生を対象に、日本学生支援機構（JASSO）奨学金および学内奨学金制度（報奨型/経済支援型）による経済的支援を実施した。学内奨学金制度による支援は、日本人学生を対象とした報奨型・経済支援型の複数の制度、留学生を対象とした経済支援型特別奨学金制度および授業料減免制度により、経済的支援を実施した

##### （1）日本学生支援機構（JASSO）奨学金

日本学生支援機構奨学金の申請希望者（在学採用、大学院予約採用）を対象に説明会を開催した。また、高等教育の修学支援新制度が中間所得層（多子世帯・私立理工農系）に拡大されたことに伴い、日本人学生全員の保護者に制度の説明と申請手続きに関する案内を郵送した。

##### （2）家計急変奨学金

家計状況の急変により修学が困難となった学生を対象に、経済的支援を実施した。

##### （3）学費支援奨学金

家計急変奨学金の基準に該当しなかった学生で、修学意欲があるにもかかわらず、家計状況により修学が困難となった学生を対象に、経済的支援を実施した。

##### （4）学内奨学金

修学意欲があり成績優秀な日本人学生および留学生を対象に、学内規程に基づき以下の経済的支援を実施した。

- ①日本人学生対象（大学院・学部生）
  - （a）入学試験成績優秀者学費減免（学部生）
  - （b）学内奨学金支給（大学院・学部生）
  - （c）入学金免除（大学院）

- ②留学生対象（大学院・学部生）
  - （a）授業料の減免措置
  - （b）学内奨学金支給
  - （c）入学金免除

#### （5）サポーター奨学金

本学を支援する企業などのサポート団体からのご寄付を基に、修学意欲があり成績優秀な日本人学生を対象に、経済的支援を実施した。

## 2. 学生相談

学生相談室を開室（開講期間中/週3日）して、学生の修学生生活を精神面からサポートするため、カウンセラー（公認心理師・精神保健福祉士）による学生相談を行った。面談方法については、対面面談およびWEB面談を選択可能として、前年に引き続き学生の利用促進を図った。

相談利用比率（在学生比）は前年をやや上回り、多様な相談内容が寄せられた他、例年に比べて対人関係の相談や、学生生活での様々な不安解消のための相談ニーズ増加が目立った。学生気質の変化に伴って、相談方法を選択可能にした他、カウンセラーから来室者へ定期的な相談来室を働きかけたこと、また長期休暇中にもスポットで開室日数を追加するなど、学生の多様な相談ニーズに通年で即応できるように対応したことによる。

また障害支援申請者に関しては、本人の意向に基づいて適宜関係者間で情報共有および連携を図った。

## 3. 留学生の支援

2024年度についても、本学独自の「留学生支援プログラム」を継続実施した。留学生支援室の開室日数は前年同様に確保するとともに、スペースの広い留学生相談室を確保して、多様な相談ニーズに対応した。学生支援委員会のもとで、1) 外部雇用者（週3日勤務/長年の日本語学校での指導経験者）の支援スタッフが面接・相談・生活指導を担当し、2) 学生生活支援担当職員（事務職員）が日常対応（在留許可手続き等）・奨学金業務を担うなど、1) 2) 双方が連携の上サポートしている。

## 4. 新入生の早期定着のための施策

新入生の大学生活・修学環境への早期適応を目的に、新入生オリエンテーション期間に、1) 学生チューター（愛称「びあサポ」）を中心にした新入生同士の交流、2) 学生

チューターとの交流等促進を行った。また在学生在が自主的に企画・運営する「新入生歓迎会」を開催し、課外活動の紹介や相談会を行い、課外活動への積極参加（課外活動団体への所属、地域貢献活動への参加等）や新入生同士や先輩・後輩間の人間関係構築に寄与している。何れも学生支援委員会を中心にサポートしており、これら取組を通じて新入生の大学生活への早期順応を図った。

## 5. 命洗祭（学園祭）実行委員会、課外活動団体の支援

### （1）命洗祭（学園祭）実行委員会

2024年度命洗祭は、学生がキャンパスのある南長浜を盛り上げたいという思いから初めて滋賀文教短期大学との合同開催とし、大学の敷地内だけではなく田村駅前からインキュベーションセンターも会場とし、駅前を活用したイベントとして各メディアにも取り上げられた。

実施に至る企画立案から合同で行い学生間交流にも大いに寄与した。また、来場者は過去最多となる4,000人を超え地域貢献にも大いに寄与した。学生出店、外部出店の合計は過去最多となる50店舗を超え、滋賀県立大学など他大学からの参加も見られた。

学生生活支援担当としては、滋賀文教短期大学の職員とも連携し学生のサポートにあたった。

### （2）課外活動団体の支援

新入生オリエンテーション期間中に、課外活動紹介を企画・実施し、各団体の勧誘活動が円滑に進むようサポートした。また、課外活動団体の新設や継続に関する申請手続き、活動計画や予算計画の妥当性を学生支援委員会で審議し、学生の自主管理と活動を支援した。さらに、長浜曳山祭りへの参加協力や地域交流活動の橋渡しを行うなど、課外活動団体の地域貢献を積極的に後押しした。

## 6. 多様な学生に対応した学生生活支援

### （1）障害学生支援

2024年4月「障害者差別解消法」改正法施行による、合理的配慮の提供義務化を受けて、「長浜バイオ大学における障害を理由とする差別の解消の推進に係る教職員等対応に関する規程」および「長浜バイオ大学障害学生支援委員会規程」に基づいて、障害支援申請者に対する支援を行った。具体的には、学生本人の支援ニーズ（支援申請）に対して、障害学生支援委員会を中心に、修学・履修支援、学習支援、就労への移行支援等、大学として可能な支援を検討して、支援申請者に対しては協議の上合意形成を図りつつ、支援策（合理的配慮）を実行した。

また例年の通り、障害学生支援の強化策として、1)関係者間での障害支援コンサルテーション実施によって個別障害支援の検証および基本情報共有、2)外部講師を招聘して大学を取り巻く障害支援の基本理解と事例研究を行った。これら内容について

ては、FD・SDの位置づけでもあることから、企画段階から各所管委員会の意見を集約するなど、障害学生支援委員会を中心にFD委員会と連携の上企画を実行した。

(2) 医務室の増設・整備

医務室利用ニーズの増加に伴って、1室増設の上、男女同時利用を可能として、利用環境の整備充実を図った。

## 【4】就職支援活動

### 1. 就職支援方針に基づく就職活動支援と進路決定状況

本学の「就職支援」は、就職活動そのものを学生が大きく成長する機会ととらえ、学生の自立を促し、主体的な進路の選択や就職決定ができることを目指す。その実現のため、就職方針を基に企業や学生の動向を踏まえながら柔軟に事業に取り組んだ。

#### (1) 進路決定状況（5月1日時点）

2024年度学部卒業生、修士修了生の進路は下記表の通りであった。

就職率は、学部卒業生 97.6%、大学院博士課程前期課程修了生 100.0%となった。また、学部卒業生のうち、滋賀県に本社所在地がある企業などへの就職者は24人で、エリア別では湖北8人（長浜市7人）、湖東7人、湖南8人、湖西1人であった。大学院進学者は学部卒業生47人（本学大学院：37人、他大学大学院：10人）、大学院博士課程前期課程修了生は6人（本学大学院：4人、他大学大学院：2人）であった。

		2024年度		2023年度	
		学部生	大学院 前期課程	学部生	大学院 前期課程
卒業生（学位授与数）		186	38	224	46
進路	就職	120	31	155	43
	進学（大学院）	47	6	54	1
	その他の進学者等	19	1	15	2
就職率：a/b		97.6%	100.0%	98.1%	100.0%
	a.就職	120	31	155	43
	b.就職希望者	123	31	158	43

### 2. 組織的な連携による支援と個別支援を重視した支援

#### (1) 組織的な連携による支援

日々変化する学生の動向や新卒採用市場の動向に柔軟に対応するために、進路・就職委員会を定期的で開催し、支援の進捗状況を確認するとともに、年間の取り組みを振り返り、自己点検の仕組みを維持し、改善に向けた検証を行った。

学内外の関係部署や外部機関と連携し、情報提供手段の強化や学生の就職活動環境の整備を進めた。これらの具体的な取り組みについては、「4. 就職活動に関連した情報提供と環境の整備」および「5. 企業との関係強化と求人情報の取得」、「6. 学外諸団体との連携」にて詳述する。

#### (2) 就職・キャリアサポートセンターの設置

就職・キャリア推進室事務局の担当職員と外部カウンセラーが就職・キャリアサポートセンターに常駐し、学生個々の進学や就職に関する課題に合わせた個別相談を

行った。また、研究室単位で担当職員を配置し、日常的にクラウド型教育支援システム（manaba）や Teams、メールなどを利用して学生の状況把握に努めた。さらに、学部3年生と修士1年生全員と進路調査の面談を実施し、進路調査や就職・キャリアサポートセンターの利用方法について説明を行うとともに、相談しやすい環境を整備した。担当職員との個別相談は予約不要で時間制限を設けず、対面またはオンライン形式で行った。2024年度卒業・修了者の相談・模擬面接の利用者数は延べ1,722人であり、卒業式時のアンケートでは就職・キャリアサポートセンターの個別相談に対して、94.9%の学生が満足・やや満足と回答した。

### 3. 就活支援行事の提供

#### (1) 就活支援講座の開催

主に学部3年生と修士1年生を対象に、年間を通じて就職ガイダンス、自己分析・自己理解、そして採用試験対策に関する講座を開催した。さらに、大学院生や臨床検査学コースの学生を対象にした専門講座も行い、合計で27の講座を開催、延べ597名の学生が参加した。また、地元企業と連携し、就職活動中の学部4年生および修士2年生を対象にしたリスタート講座も実施した。

#### (2) 業界・職種研究セミナーの実施

学部3年生と修士1年生を対象に、様々な業界から採用担当者を招いて、業界・職種研究セミナーを開催した。このセミナーでは、業界や職種、仕事内容に必要なスキルや求められる人材像を理解することができるように配慮して、本学の学びを生かせる8つの業界から12社を招聘し、延べ73名の学生が参加した。

#### (3) 学内合同業界研究会の実施

主に学部3年生と修士1年生を対象に、全学生を対象とした、就業意識と就職活動への意識を高めるために、様々な業界から45社の企業や団体を招待し、2025年2月に3日間にわたって合同業界研究会を開催した。この3日間に延べ184名の学部生・大学院生が参加した。なお、2024年度卒業・修了生が参加した2024年2月開催の本研究会で、参加した企業・団体のうち16社に延べ38名の内定に繋がっている。

#### (4) 学内企業説明会の開催

学生と企業との最適なマッチングおよび相互に満足できる出会いを促進するため、広報解禁日以降に企業・団体などの個別説明会を本学学内またはオンラインで開催した。95の企業・団体から参加申し込みがあり、延べ57名の学生が参加、うち7名が内定に繋がった。

#### (5) 公務員希望者への支援

学部3年生および修士1年生を対象に、官公庁から講師を招き、学生のキャリア選択の幅を広げることを目的とした公務員ガイダンスを開催し、33名の学生が参加

した。また、公務員の筆記試験対策として、オンライン・通信教育の講座を設置し、学部3年生5名が受講した。

#### (6) バスツアーの実施

学生が多くの企業と接点を持ち、幅広くキャリアについて考える機会として、チャーターバスによる合同説明会バスツアーを企画し、参加者を募集した。しかし、申し込み者が少なかったため、今年度の開催は中止した。

### 4. 就職活動に関連した情報提供と環境の整備

#### (1) 前期・後期履修ガイダンスを活用した就活情報の提供

学部3年生に対して、キャリア形成への意識づけと早期化する就職活動に関する情報を提供するために、履修ガイダンスを活用した情報提供を行った。履修ガイダンス内では、キャリア科目の紹介と対象学年の就職活動支援講座について説明と参加の奨励を行った。

#### (2) 学内ホームページの整備・情報配信手段の強化

学生への情報提供手段として、学内ホームページ内に就職・キャリアサポートサイトを継続して設置し、就職活動に関する情報提供を行った。リアルタイムに情報を取得しやすい環境を作るため、Microsoft Teams を活用して求人紹介や学内イベントの周知を行った。サポートセンターの稼働状況を簡単に確認できるよう、Instagram、X、Threads、Bluesky の4つのSNSで毎日情報発信した。また、視覚的に情報が得やすいデジタルサイネージの活用にも取り組んだ。さらに、紙での掲示については、学生が閲覧しやすいレイアウトへの変更、学生ニーズに合わせたカテゴリー展開、閲覧スペースの設置などを行い、情報提供の効率化と学生の利便性向上を図った。

#### (3) 学生の就職活動環境の整備

採用活動やインターシップのオンライン化ニーズを鑑み、大学内にオンラインブースの設置し運用している。定期的にオンラインでの就職活動に必要な備品の整備、更新を行った。2024年度は延べ374名の学生がオンラインブースを利用した。

#### (4) キャリアガイドブックの作成

就職活動の準備段階から選考当日に必要な基本情報を網羅した「キャリアガイドブック」を作成し、学部3年生及び修士1年生に配布した。

#### (5) 障害を持った学生への就職活動情報の提供

個別対応を中心に、障害者向けの求人情報Webサイトや求人情報の提供を行った。また、掲示スペース内に障害のある学生向けの専用コーナーを設け、紙面による情報提供も実施した。さらに、学生相談室の心理カウンセラーや外部支援組織との連携を図りながら支援した。

#### (6) 留学生への就職活動情報の提供

留学生相談室職員、外部支援組織との連携を図りながら、留学生に対する個別支援

に取り組んだ。また、掲示スペース内に留学生向けの専用コーナーを設け、紙面による情報提供も実施した。

## 5. 企業との関係強化と求人情報の取得

### (1) 求人依頼・年間での求人情報の取得

2025年3月卒業・修了予定者採用の求人に関して、最新の情報を得ることと求人の掘り起こしを目的に、郵送による採用活動調査を年に2回実施した。また、2026年3月卒業・修了予定者対象の求人開拓と新規求人確保を目的に、求人依頼パンフレット（卒業生の就職実績、対象学生の出身地域や学部学科構成を含む）を作成し、郵送による求人依頼も行った。2024年度卒業・修了者を対象に約15,400件の求人を受理した。

新卒求人サイトやナビサイト、自治体が開催する合同企業説明会や大学と企業との情報交換会などに積極的に参加し、求人の開拓および学内での単独企業説明会の開催を呼びかけた。

### (2) 企業への大学PRと求人の開拓

自治体や業界団体などが滋賀県および近隣県で開催する企業と大学との交流会等を通じて、大学や学生のPR活動を行い、求人提供や学内企業説明会の開催を依頼した。

### (3) 地元企業との関係強化

びわ湖東北部地域連携協議会の連携機関である長浜商工会議所や彦根商工会議所などの会員企業との関係強化を目指し、協議会主催のイベントに積極的に参加し、求人開拓を行った。また、湖北地域の企業と連携して、就職活動支援講座や地方企業への就職を希望する学生向けの合同説明会や企業見学会を開催した。さらに、労働局と連携して、学内でのハローワーク相談の受け付けや地方の求人情報の収集・提供に取り組んだ。

## 6. 学外諸団体との連携

「全国私立大学就職指導研究会」「環びわこ大学・地域コンソーシアム」「中部学生就職連絡協議会連合会」など、本学の周辺地域の官公庁や大学、企業などで構成される団体に加盟し、共同就職支援事業を通じて、各地区の大学や企業間で情報交換を行い、求人情報や企業の採用動向などの情報収集に努め、学生への情報提供につなげた。

## 【5-1】学生募集

本学では、アドミッション・ポリシー（入学者受入れ方針）を定め、多様な入試方式を設定し、理科が好きでバイオサイエンスおよびバイオテクノロジーを学び、社会の役に立ちたいという意欲ある学生を募集した。

### 1. 2025年度入試と受験環境

全国私立大学全体の志願者は6年ぶりに志願者が増加した。地区別では、3大都市圏の大規模大学中心に増加した。これは、18歳人口の増加による受験人口全体の増加、コロナ禍完全収束に伴い、受験生の「大都市・大規模大学・上位志向」が顕著になり、私立大学志願者数増加に繋がった。教育課程変更や共通テストの出題傾向変容による国公立大学離れによる私立大学併願校数の増加も影響した。外国語系・国際・観光は、コロナ禍完全収束やインバウンド需要の盛り上がりで大幅に増加した。

全国では、中小規模大学の6割以上で志願者が減少した。近畿地区は、グループ大学（関西8大学）以外の志願者減少が顕著であった。

年内入試では志願者と、合格者が文理問わず増加した。関西圏では年内入試が活発だが、東海・首都圏でも大幅に増加した。18歳人口減少が小幅なエリアでは、今後増加が基調になると予想される。

年内で合格を目指す受験生と年明けに国公立・大規模大学を中心にチャレンジする受験生の二極化の構造がさらに顕著になった。

### 2. 本学学部の入学試験結果

本学学部全体の総志願者数は前年比74.9%、実志願者数は前年比89.9%、入学者は前年比85.0%と共に減少し、入学定員を充足する事は出来なかった。ひとり当たりの併願学科数が減少し、総志願者数は実志願者数以上に減少している。

受験生の動向と募集構造の二極化は顕著でコロナ禍以降変わらなかった。大学全体の競争も激化しており、一般選抜で「特待生制度」を設けているが、学部全体の歩留率は44.7%で、2.5%下落した。年内入試の入学者は前年比87.5%、年明入試の入学者は前年比84.6%となっている。特待生制度の入学者は、対前年比162.5%と増加した。

### 3. 大学院入試の入学試験結果と概要

大学院博士課程前期課程では、本学学部生に対して早期から大学院への興味関心を深められるよう、学年を問わず参加できる大学院説明会の実施（12月）やキャリア系講義科目（社会との関わりとキャリアパス）において、就職先や職種など学部卒とのキャリアパスの違いを講義するなど、大学院進学への意識向上に努めた。

今年度の入学試験結果は、志願者数50名（対前年比90.9%）、入学者数38名（対前年比100.0%、定員充足率105.6%）となり、5年連続で入学定員を確保することができた。一方博士課程後期課程では、志願者、入学者共に5名（対前年比500.0%、定員

充足率 100.0%) となり、2019 年度以来、6 年ぶりに入学定員を確保することができた。

(資料①「2025 年度入学者統計資料」)

#### 4. 募集広報活動

近年、理系学部の新増設が相次ぎ、受験生の志願先が総合大学や知名度・立地に優れた大学へと集中する傾向が強まっている。さらに競合大学による大型奨学金制度の導入も進み、学生募集環境は一層厳しさを増している。このような状況下で 2025 年度の入学者確保に向けては、本学の知名度向上と受験生の導線強化が急務であり、その実現に向けて特別予算を投じた広報強化策を展開した。

新学科の周知に関しては、チラシ作成に加え、高校教員説明会やオープンキャンパスでの学科説明を実施。近隣高校訪問時には新学科教員も同行し、専門的かつ具体的な情報提供を行った。早期出願の促進を図るべく、重点エリアの実績校には総合型選抜の要項を大学案内とともに送付した。

広報活動では、SNS や外部業者のデジタル広告、進学情報企業が保有する会員名簿を活用し、特待生制度や入試情報を高校生に直接届けた。また、年内・年明で志望傾向が二極化する現状を踏まえ、11 月以降は非接触層へのバナー広告、DM、FAXDM、業者連携広告などの多面的アプローチを強化した。

特別予算により、高校生・保護者向けのリーフレットやショート動画 10 本を制作し、LINE・Instagram・TikTok で広告を配信。志願者数への直接的な影響は限定的だったが、3 月のオープンキャンパス参加者数は前年比の約 2 倍に達し、低年次層への訴求効果と今後の志願意欲の醸成に一定の成果が見られた。

- (1) オープンキャンパスは、バイオ実験・実習編、学科紹介編、一般入試対策編を開催した。合計 9 回、のべ 1,058 名（昨年度 1,021 名、前年比 103.6%）の参加があった。
- (2) 高校ガイダンス（進学相談会、学問分野別説明会、模擬授業等）の参加件数は、160 件（昨年度 125 件）で、参加人数はのべ 1,080 名（昨年度 1,317 名）であった。  
合同進学相談会は、6 月に「農・バイオ・生命科学系大学フェア」、7 月と 9 月には「マイナビ進学ライブ（京都・金沢）」に積極的に参加した。
- (3) 高校教員対象説明会を、大津と本学で 2 回実施し 15 名（昨年度 28 名）の参加者があった。
- (4) 高校訪問は、滋賀県、京都府、大阪府、奈良県、岐阜県、愛知県、福井県の重点高校を中心に入試動向調査及び在籍生の報告を中心に 6～7 月に 190 校（うち訪問代行 89 校・昨年度 163 校）、9～12 月に 130 校（昨年度 113 校）訪問した。他に日本語学校や大手進学予備校も訪問した。

- (5) 資料請求者総数は前年比 113.6%増加した。特に低年次向けの広報強化の効果で 1 年生の請求者が 150.7%と増加しており、今後志願者へ育成していくための情報提供が必要とされる。

## 5. 広報活動

### 2024 年度広報活動の振り返り

理系学部の新設が全国的に進む一方で、18 歳人口の減少、入試の年内シフトの加速、知名度や立地に優れる大学への志望集中など、地方の単科私立大学にとっては一層厳しい学生募集環境となった。本学においても例外ではなく、今後は限られた予算の中で、「何が効果的であり、何がそうでないか」を常に検証しながら広報施策を講じる必要がある。加えて、情報を受け取る対象ごとに適したメッセージ設計と伝達手段を考慮し、より戦略的な広報展開が求められる。

#### (1) リブランディング施策

本学では、キービジュアルを用いたリブランディングに 6 年にわたり取り組んできた。駅看板広告や交通広告、リスティング広告などで本学のイメージを訴求してきたが、今後は新たな展開を見据える時期に入っている。予算の都合により、JR 山科駅・草津駅・大垣駅の看板広告は 2023 年度末で掲出を終了。JR 西日本および京阪電鉄で例年 10 月に実施していたステッカー広告についても、2023 年度で終了している。交通広告の露出がないため、今後のブランディング戦略において改善が必要。

また、オープンキャンパスへの集客を最大化するための新たな施策として、2024 年度は Instagram や TikTok といった SNS 広告からの導線を想定した特設ランディングページ (LP) を新たに制作・運用した。LP では、実際に在学生在が語る学生生活の魅力や、オープンキャンパスで体験できるプログラムの臨場感をビジュアルとテキストの両面から訴求した。LP 内のコンテンツは「親しみやすさ」「リアルな声」「行ってみたくなる空気感」を意識して構成し、SNS 広告とも連動させることで、情報接触から申込までの導線を一本化した。

その結果、2024 年 3 月に実施したオープンキャンパスでは、昨年度比で約 2 倍の参加者数を記録し、施策として大きな成果を上げることができた。今後は、LP の分析データ (アクセス数、申込率、離脱ポイント等) を活用し、改善を重ねながらさらなる集客力の向上を目指す。

#### (2) ステークホルダー向け情報発信

大学公式ウェブサイトについては数年に渡ってマイナーチェンジを行ってきたが、アクセシビリティの向上やビジュアルでの訴求などの課題も見られるため、大幅な改修を検討する時期にきており、ブランディング広報と並行して見直す必要がある。

SNS による情報発信を更に強化し、2023 年 5 月からは Instagram の運用を開始した。イベント、学生生活、授業、研究、キャンパス風景など、多様な投稿を行い、2025

年3月末時点で投稿数は291件（昨年149件）、フォロワー数は760名（昨年380名）となった。推定されるフォロワー層は、高校生・大学生・保護者・他大学広報・企業など多岐にわたる。同内容をFacebookとThreadsにも転用している。

LINEは、オープンキャンパスや入試出願情報の発信に加え、2020年度から導入したLINE個別相談機能を活用し、受験生や保護者との双方向コミュニケーションを図っている。2024年3月末時点の友だち登録数は6,564人（前年比+231人）、メッセージ配信回数は24回（前年比-5回）であった。実際にメッセージを送ることができるターゲットリーチは年度当初1057名から1088名と微増であるため、今後ターゲットリーチをいかにして伸ばすかが課題である。

YouTubeチャンネルでは、学科紹介や入試方式解説などの動画を学内制作し、受験生応援サイトとの連携のもと発信した。一般選抜前期では170回の視聴があった。近年若者を中心に視聴時間が伸びている縦型のショート動画について、オープンキャンパスの広告を中心に公開。5本の動画で計677回の視聴となった。人気動画の傾向などを分析しコンテンツ制作に反映させる必要がある。

検索連動型広告（リスティング広告）は継続的に実施し、前年度の成果を踏まえた予算配分により、オープンキャンパスや総合型選抜、公募制推薦の出願促進に活用した。学生モデルを用いたバナー広告の反応も良好であり、効果的な運用が可能であった。リスティング広告の運用は専門業者に運用を委ねているが、効果の検証と合わせて次年度は業者選定も含めて検討が必要とされる。

### (3) 印刷物・メディア対応・地域連携

大学案内冊子については、2020年度の大規模リニューアル以降、小幅な改訂を継続している。各ページにQRコードを設け、ウェブサイト上で詳細情報にアクセスできるようにした。2026年度版の表紙デザインには学生の意見を反映した。

広報誌『めいこう』は、大学の教育・研究・学生活動を学外へ発信する媒体として年2回発行した。第52号（2025年1月発行）では、「AI・データサイエンス×バイオで開ける未来」を特集した。2024年度よりページ数を削減し、高校生にも親しみやすい紙面構成にリニューアルした。

プレスリリースは、長浜市役所記者室への提出を随時行い、単独・共同あわせて8件を発信した。また、大学プレスセンターを通じては、食パン専門店と共同開発した食パンの活動や、オオサンショウウオ交雑個体の発見についての発表など、6件のリリースを行った。いずれも報道機関からの取材や記事掲載に結びついており、今後も注目度の高い話題は積極的に発信していく方針である。

その他、協賛広告等に用いる版下の制作やオープンキャンパスなどのチラシ、大学院案内などの冊子についても学内で対応し、経費削減と内容の即時反映を図った。

## 【5-2】高大連携推進事業活動

### 1. 事業の全体結果

2024年度の高大連携事業は本学独自の模擬講義および連携講座は40講座（昨年度29講座）、受講者は1,148名（昨年度1,205名）であった。2025年度の入試募集において本事業を実施した高等学校から28名の入学者を獲得した。また、入試担当から依頼を受け高大連携担当が実施した進路支援企業主催の進路ガイダンスは40講座（昨年度49講座）、参加者は588名（549名）であった。したがって、2024年度において、高大連携担当として、計80講座（昨年度78講座）、1,814名（昨年度1,754名）の生徒と関わることができた。

### 2. 各事業の内容および結果

#### （1）研究支援

「総合的な探究の時間」・課題研究・科学部等の研究活動に係る支援については、本学教員と協力しながら、延べ6校（昨年度6校）の活動支援を行った。2025年度入試において、研究支援を実施した高等学校から6名の入学者を獲得した。

#### （2）長浜バイオ大学模擬講義

「長浜バイオ大学 模擬講義」については、本学教員と協力しながら、出張型・来学型を合わせて12校（昨年度8校）で19講座を実施した。2024年度は新たに滋賀県（2校）、福井県（1校）、京都府（2校）、大阪府（1校）の高等学校での模擬講義を実施することができた。2025年度入試において、模擬講義を実施した高等学校から13名の入学者を獲得した。

#### （3）実験講座

中学校および高等学校との間で実施した実験講座については、本学教員と協力しながら、出張型・来学型を合わせて19校（昨年度17校）で21講座を実施した。「長浜学びの実験室」を活用した講座については5校であった。2024年度は新たに滋賀県（1校）、岐阜県（2校）の中学校・高等学校との連携講座を実施することができた。2025年度入試において、実験講座を実施した高等学校から7名の入学者を獲得した。

#### （4）協定校との連携

協定校との連携事業については、本学教員と協力しながら、私立近江兄弟社高等学校の「学部学科セミナー」、滋賀県立虎姫高等学校のスーパーサイエンスハイスクール講座「バイオセミナー」の実施および学校指定科目「究理Ⅱ」の支援を実施した。さらに、2024年度は虎姫高等学校の課題研究発表会「学問祭」の会場として本学を使用し、高校との連携関係の深化に貢献した。

#### （5）外部資金への支援

中学校や高等学校が申請する理科教育事業（外部資金）への支援については、2024年度は中学校・高等学校からの依頼が無かった。

(6) その他連携事業

教員対象研修事業および教育委員会や文化連盟との連携事業については、京都府教育委員会「子どもの知的好奇心をくすぐる体験授業」に協力し、延べ1回の講座を実施した。また、滋賀県高等学校文化連盟が主催する第45回 滋賀県高等学校総合文化祭のプログラムへ広告掲載を行い、文化部に所属する高校生へ本学の知名度向上に貢献した。また、同祭自然科学部門 秋季研究発表会に参加し、9校115名の生徒との交流を深めた。

(7) 進路ガイダンス

進路支援企業主催の進路ガイダンスについては、入試・広報担当と連携・協力しながら、延べ14校(160名)の模擬授業、延べ50校(632名)の分野別・職業別説明会、延べ43校(197名)の大学説明会を実施した。

(資料②「2024年度 高大連携事業一覧」)

## 【6】学習支援活動

本学では、「長浜バイオ大学の学習支援に関する方針」に基づき、学生一人ひとりの学士力保証と学部教育の質向上を目的として学習支援活動に取り組むため、学習支援委員会の管轄する学習支援センターと学生自習室を設置し、ここを中心として学生の自主的な学習に寄り添う支援を行っている。2024年度は、下記の事業を実施した。

### 1. 学習支援

#### (1) 学習支援センターにおける対面の学習支援

学習支援センターには化学および生物学担当の専任教員が常駐し、学生の質問や相談の対応、また、さまざまな科目担当教員との連携を図っている。2024年度の利用者数（質問・相談）は延べ700名（前期486名、後期214名）で、昨年度の約71%に減少した（表1）。実人数でも約85%の減少だった。1年次生の利用は特に減少し、全体の48%（昨年度68%）だった。昨年度のように、学習支援センターにて「化学基礎」科目受講者の特別指導を行わなかったためと思われたが、来室の機会がなかった学習困難学生を見逃している可能性もあり、注意は必要である。一方で、2,3年次生の利用者数は増加した（表1）。臨床検査学コースの2年次生、過年度生などで、定期利用者がいた。

講義に関する質問相談が47%（昨年度61%）で、最も多かった。

表1 学習支援センター利用者数(年間)

年度	のべ人数 (人)	実人数 (人)	学年ごとの割合(%)			
			1年次生	2年次生	3年次生	4年次生
2024	700	193	48	30	15	7
2023	985	228	68	17	12	3
2022	1003	257	53	24	15	7

#### (2) 学習アドバイザー学生によるピアサポート

3年次生以上の学生を、選考と研修を経て「学習アドバイザー学生」として雇用し、質問者と共に学習方法を考える、また、学習習慣を支援するなどの業務に当たらせた。2024年度は、5名の学生により週あたり10コマ（全部で15時間）の学生指導を学習支援センターにて行った。表1の学習支援センター利用者は、約2割が学習アドバイザー学生による指導を受けた。

2024年度に特に行ったことは、単位取得が遅れている2年次生2名に対し、対面で定期的に学習アドバイザー学生が指導する機会を持った。

#### (3) 成績不良者への面談と支援

FB学科長と取得単位の少ない学生の面談の場に学習支援センターの教員が同席し、学生へのアドバイスをを行った。保証人（保護者）の要請があれば、出席状況の定期連

絡を行なった。大学に来るのが難しい1名に教員が定期的な面談を行い支援したが、本学生は再び欠席が連続している。支援がとて難い学生がいる。

#### (4) 学習支援センターアンケート

1年次生から3年次生の学習に対する意識や行動を把握することを目的として、入学時、前期末、および後期末にアンケートを実施している。学習支援センター利用、授業に対する志向度、課外活動への参加、アルバイト経験、読書、自主的な勉強の実施などを尋ねて集計している。2024年度は学科・コース別の集計を行ったので、特に授業に関心が高いのは臨床検査学コースの2,3年次生であること、他学科では2年次生が3,4年次生に比べて授業への関心が高いことなどが見られた。さらに分析を進めることで、本学学生の学習活動がより明らかにできる可能性がある。

#### (5) ラーニングサポートブック（筑波大学）の導入

筑波大学で発行しているWeb版のラーニングサポートブック(学生版、教職員版)を、学習支援のために導入している。学生の学習や生活をサポートするコンテンツ(ノートの取り方、スライドの作り方、アルバイトと学業の両立のヒント、就活支援など)に加えて、教職員向けに発達障害学生の支援に関するコンテンツなども掲載されている。学習アドバイザー学生には、下級生への指導に活用するよう奨励している。全学的な周知は、新入生向けのガイダンスで行った他、「新学年へのステップアップのすすめ」として後期の定期試験終了後に活用を奨励した。しかし、本学におけるサイトの利用頻度などは調査していない。

## 2. 学生自習室の管理・運営

命北館5階の学生自習室(学習支援センター隣)を管理・運営した。(平日9:00~20:00開室。2023年度途中より、夜間の開室延長。)また、後期試験中の土日にも試験的に開室したところ、のべ14名が利用した。飲食も可としており、個人の学習、グループ学習、ぴあサポチューターのミーティングや作業、学習支援センタースタッフや学習アドバイザーとの相談などに利用されている。学生の「居場所」としての利用もされている。

## 3. 新入生オリエンテーション

教務担当、学生担当、教育・学術情報センターの各部署と連携し、学習支援センターが、新入生オリエンテーションの企画を作成した。また、学生チューター紹介、履修登録ワークショップ、ぴあサポ交流会の各企画を実施した。終了後のアンケート調査によると、大学生活への不安は軽減し、自分自身で計画的・積極的に行動することの重要性が理解されていた。

## 4. 入学前教育講座

入学前教育講座は、本学を会場としたスクーリングと自宅で行うWEB学習から成っ

ており、学習習慣を維持して大学での学びへとスムーズに移行させること、大学生活の心配を取り除くこと、本学に親近感を持って入学の意志を高めることを目的に実施している。プレ入学前教育講座を12月26日に先んじて開催し、大学ツアー、講義の見学、学生との交流を実施した。58名（登録59名）が参加した。

3回（2月8日、3月6日、3月28日）のスクーリングでは、例年の英語、化学、生物学の講義に加え、本年度は数学の代わりに「実験へのいざない」で学生実験の意義などを伝え、アンケートによると好評であった。データサイエンス実習も行った。他に、研究室訪問および本学学生との交流会を行なった。WEB学習は、manabaを用いた教材と課題の提供を行なった。また、冊子の英語教材を受講生全員に課した。

2024年度は当初より入試合格者の全員から受講登録者を募り、1月からは入学手続き者にチラシを郵送した。全体では113名（スクーリング+WEB学習101名;WEB学習のみ12名）の合格者が受講登録した。受講促進を始めた2023年度には、前年の1.4倍に増加したが、今年度もそれが維持された。2月8日（1回目）は悪天候（大雪）の対応があり、参加者は55名（登録70名）だった。本講座の受講登録者のうち、入学辞退者は7名だった。

## 5. 学生チューター制度（ぴあサポ）の運営

「長浜バイオ大学学生チューター規程」に基づき、学生チューター制度（ぴあサポ）による新入生支援を実施した。2,3年次生の学生チューター（24名）は前年度終わりに選考と研修が済んでおり、1名あたり6~8名の新入生グループを担当した。新入生ガイダンスから支援を始め、修学や大学生活に関することを、対面やTeamsチャットを利用して新入生に助言した。また、新入生同士の交流を促した。月に一回の活動報告を運営会議あてに行った。

学生チューター制度の運営会議は、学習支援推進室だけでなく、学生担当の教職員を含む人員で構成され、1回/月程度の会議で学生チューターの活動状況を把握した。また、チューターサポーターは、運営会議構成員のうち学習支援センター教員および学生担当職員から成り、さらに高い頻度で学生チューターの活動状況を把握して支援した。

AB学科の学生チューター1名が後期を休学することになり、担当していた6名の1年次生は同じ学科の6名の学生チューターに1名ずつ振り分けて支援した。後期は、新入生が大学に慣れて支援の頻度は低下したが、命洗祭への出店および次年度学生チューターの募集活動を行った。

1年次生のアンケート調査によると、ぴあサポが大学生活に慣れて大学生活のモチベーションとなっていると感じる学生は前年度と同様に多かった。また、学生チューターの総括においても、やりがい、楽しさ、自身の成長を実感できたとする回答が多かった。

本制度を発展的に継続させる目的で、現学生チューターから座談会形式で意見聴取を行った。学生チューターからは、1,2年次の間に研究室について知る機会を作る、

学習支援センターの利用促進のためのイベントを企画する、チューター活動のマナー化を改善する、などの意見が挙げられた。

## **6. 広報活動**

学習支援センターの支援内容を1年次生に周知するため、「学習支援センター紹介」の資料を作成し、新入生オリエンテーションで配布した。本学の学習支援体制について、学外へ広報をすることは行なっていない。

## 【7-1】教育・学術情報センター活動（図書部門）

### 1. 受入・蔵書構築

2024年度内の図書の購入冊数は、742冊（うち和書635冊・洋書107冊）、購入金額は、1,858,821円（うち和書1,587,962円・洋書270,859円）であった。寄贈図書の受け入れ冊数は、650冊（うち和書649冊・洋書1冊）あった。分類別では、計1,392冊の受け入れ図書のうち、岩波新書、ブルーバックを除き、文学（355冊）、自然科学（297冊）、社会科学（241冊）が多かった。（受入グラフ参照）



2024年度除籍資料は3冊、未返却もしくは不明から5年以上経過しており、すべて現在所有しない資料である。

図書の購入予算315万円から、教員リクエストのデータベース（Rebase）の購入費に360,856円（税別）、洋書の電子ブック3シリーズ（Methods in Enzymology、Methods in Cell Biology、Advances in Applied Microbiology）の購入費に632,767円（税別）を充てた。加えて2024年度はDVDの購入費152,686円（税込）も図書予算から充当した。DVDは購入した39点の他、27点の寄贈資料も受け入れた。

冊子の雑誌については、国内雑誌38誌と科学新聞、英字新聞（alpha）の購読を継続した。その他、寄贈雑誌を洋雑誌も合わせて20誌程度を受け入れている。購入雑誌のうち、永年保存対象の学術雑誌については、2018年度から順次製本化しており、2024年度は、10誌について製本化を行った。（製本後冊数65冊）

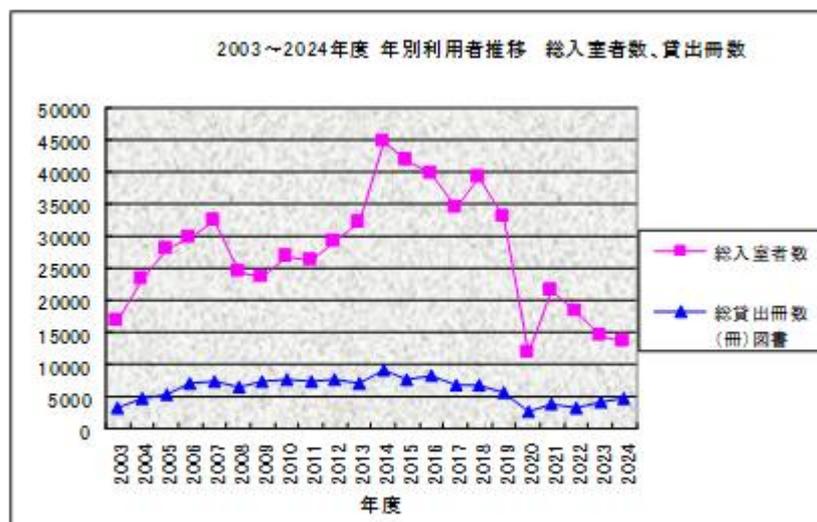
洋雑誌の購入は、すべてオンラインジャーナルでの契約としている。1月からの契約となるため、2024年度の予算では、2025年1月～12月についての購読契約を完了した。2024年1月からの購読タイトルは、2022年度の教育・学術情報センター委員会で決定した削減方針に基づき、Springer Natureの雑誌4誌を購読中止し、nature.com上のすべてのジャーナルに対して利用できるPay per Viewモデル（Nature.com Content on Demand）を250ユニット導入した。Pay per Viewモデルの利用状況は、2024年1月から12月の1年間で236ユニットだった。2025年1月からのについても、250ユニットを追加で購入した。その他の雑誌については、利用続

計、契約条件から検討した3誌(The Journal of Nutrition, Journal of General Virology, Infinite dimensional analysis, quantum probability, and related topics)の購読を休止することが決定した。雑誌価格高騰、円安の影響により、購読誌の削減が続くが、オープンアクセスの雑誌や、国内の大学や教育・研究機関向けに提供されるナショナルアカデミックライセンスによる購読可能なアーカイブの数も増えてきており、契約ジャーナルと合わせて案内をしている。

## 2. 利用統計

2024年度の図書室総入室者数は、13,636人、図書の総貸出冊数は4,799冊、うち学部生の図書貸出は3,816冊、院生は331冊だった。DVDの貸出は34点だったが、そのうち、学生の貸出は3点にとどまった。貸出用のノートパソコンの貸出は91回(学部生44回、院生20回)であった。ノートパソコンについては、2022年度から図書と同様の貸出システムで管理するようにしたため、貸出の統計を取得できるようになったが、2022年度の利用数が291回(学部生185回、院生87回)2023年度は137回(学部生57回、院生63回)と、年々減少してきている。

利用者用コピー機は費用対効果の観点から2021年度末に撤去したが、図書室所蔵資料の複写を希望した利用者に対しては、職員が確認のうえ、対応している。2024年度は学生12名に対して、98枚のコピーを無償で提供した。



## 3. 学習・教育・研究支援

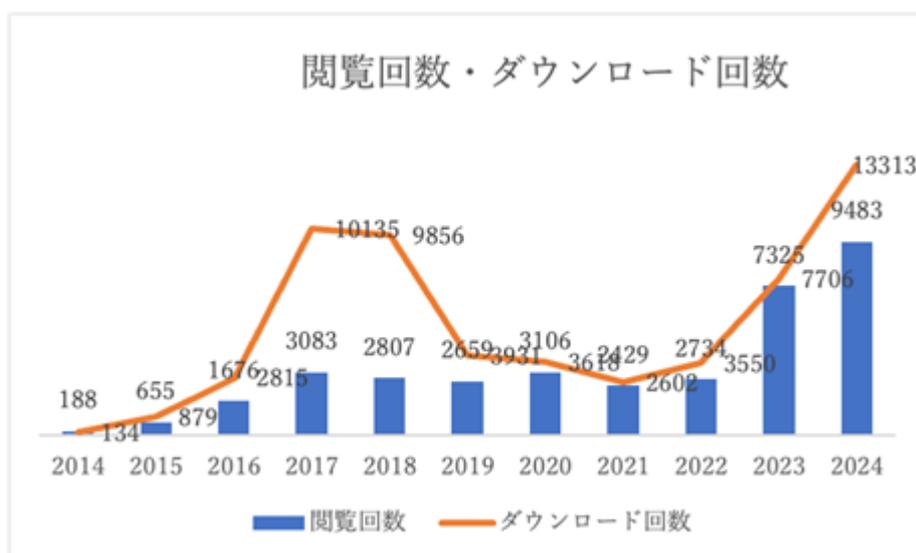
### ①有料データベース

契約データベースでは、海外文献検索として、2007年度から利用している「CAS SciFinder Discovery Platform for Academic」と、2020年度から利用開始した真核生物の反復配列のデータベース「Repbases」を継続して契約した。日本語の検索データベースは、新聞記事・企業情報データベース「日経テレコン21」を2016年度から、

国内医学論文情報検索サービス「医中誌 Web」を 2019 年度から継続して提供している。データベースの利用講習については、参加者数の減少が続いていた本学独自開催の講習会に代わり、オンラインで自由に参加できる講習会の案内に切り替え、OPAC の画面から申込へのリンク先を示した。

## ②機関リポジトリ

学内の研究成果を発信するシステムとして、機関リポジトリ「長浜バイオ大学リポジトリ」を構築している。大学、研究機関 783 機関（2025 年 4 月現在）が参加するオープンアクセスリポジトリ推進協会（JPCOAR）のクラウド型の機関リポジトリ環境提供サービス「JAIRO Cloud」を利用して 2014 年度より運用している。2025 年 3 月現在、2013 年～2023 年度博士課程後期課程修了生の学位論文（要旨のみ含む）計 35 件と、ゲノム編集研究所紀要第 1～5 号の論文等 37 件を公表している。2024 年（1 月～12 月）のダウンロード回数は 13,313 回だった。



## ③研究成果の公開に関わるポリシーの策定

本学の学術活動(教育および研究活動)によって産み出された論文を含む著作物およびその背景となるデータ(学術データ)を、広く一般に利活用可能な形で集積し公開する目的で、長浜バイオ大学オープンアクセスポリシーと長浜バイオ大学学術データポリシーを策定し、いずれも教育・学術情報センター委員会と学長協議会の承認を得て公開した。

## ④図書館間相互協力

本学にない資料を提供する方法として、リクエスト図書は入手できる図書であればすべて購入した。絶版などで購入できない資料については、他機関の所蔵を調査したうえで、最適な方法を提示した。その一つとして、他大学図書館との資料の相互利用サービス（ILL）がある。2024 年度の申込件数は取り寄せが 64 件、他機関への提供は 37 件だった。他機関から取り寄せる件数は近年、減少傾向にあるが、依頼され

た資料のうち、所蔵資料や本文閲覧可能な論文などで対応できた件数が31件あった。

#### ⑤利用指導

学部生への図書室の利用指導として、1年生前期開講の必修科目「大学での学びと実践方法I」のなかで、図書室職員も協力して図書室の使い方や情報検索、図書室所蔵資料を使った調査学習を行った。また、学生用の利用案内とOPACの操作方法、新生生のガイダンス用のガイドをOPAC上でいつでも閲覧できるようにした。

### 4. 他大学との連携

私立大学図書館協会（2024年度加盟校数514校）に加盟しており、本学は西地区部会京都地区協議会（2024年度加盟校数39校）の活動に参加している。コロナ禍以降はオンラインでの研究会開催やメール会議が続いている。2024年度は、2025年度に役員校（幹事校）を務めるため、運営委員会への参加や京都地区協議会研究会検討委員としてオンライン会議、メール会議に参加した。滋賀県内機関との連携では14大学図書館と滋賀県立図書館で構成されている滋賀県大学図書館連絡会を年2回開催している。2024年度前期（夏）の会議は対面開催で滋賀文教短期大学を会場とした連絡会に出席した。後期（冬）は、オンラインでの会議に出席した。連絡会では、業務の課題や各館活動の情報交換を行った。また、各大学図書館からのおすすめ本を紹介する冊子『滋賀県大学図書館のおすすめ本』を共同企画で年1回発行し、各館で学生の読書推進や展示に活用されている。2024年度末には第4号を発行した。本学では毎年、若手教員におすすめ本選書と推薦文を輪番で担当してもらっており、2024年度はデータサイエンス学科の教員にお願いした。図書室内での展示のほか、OPACブックリストへの掲載をして、オンライン上で冊子を閲覧できるようにした。

びわ湖東北部地域連携協議会の取り組みのひとつとして、滋賀文教短期大学図書館が長浜市と共催している「本を紹介してみませんか POP・本の帯コンクール」に本学も審査員として協力している。2024年度も予備審査と本審査の両方で携わることができた。

### 5. 学外・地域住民への開放

大学の地域貢献の一環として、学外者へ図書室を開放している。図書室利用を地域住民に促進するため作成したQRコード付きの利用案内チラシは、OPACにも掲載した。学外利用者登録者の総数は、大学開学年から2024年度末までで累計127名となった。現在は学生証と同じシステムの利用証を発行している。2024年度の利用登録者は13名（うち新規登録は6名）、2024年度の貸出冊数は164冊だった。また、登録を必要としない資料閲覧、閲覧席利用サービスも行っている。閲覧席での自習も可能としているため、高校生や他大学学生にも利用されている。

図書室からの情報発信は、学内者向けには2024年10月に学内ホームページが廃止されたことに伴い、クラウド型教育支援サービス「manaba」へ情報を移行した。契約

データベースやオンラインジャーナル等学内構成員向けサービスページなどを掲載する『図書室からのお知らせ』ページを「manaba」上に新たに開設した。

一方、利用者向け OPAC（利用者用蔵書目録）、「facebook」には学外者を含めた利用者にも見てもらえる情報を掲載している。お知らせや展示資料のブックリスト、新着図書リスト、学内・学外利用者別の利用案内、開室状況などの情報発信を行った。

## 【7-2】教育・学術情報センター活動（情報部門）

### 1. 情報実習室の管理運営

情報実習室(3室-PC196台)は2025年2月に前回の整備から7年が経過し、本来であれば実習環境(PC等)の更新を実施する時期ではあるが、現在の情報実習室のハードウェアの性能が十分実習要件を満たしており、機器の故障もないことから2024年度中の情報実習室更新は見送り、次年度以降に改めて検討することにした。ソフトウェアの環境としては、2025年4月から実習環境はWindows11環境を利用するように決定したため、Windows11の実習環境の整備を行った。

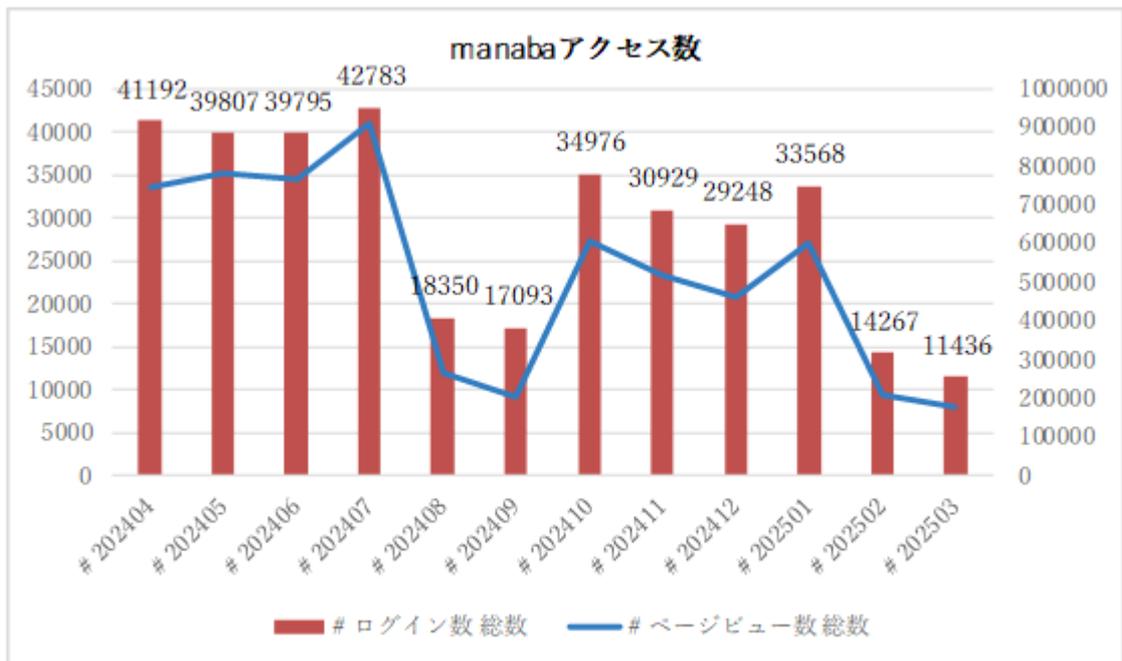
2024年度中の実習環境も大きなトラブルは発生せずPCの稼働率は100%を維持している。カラープリンタは、1週間あたり一人30枚の制限付きではあるが、無料で利用できるため多くの学生に利用されており、インクの消費量も多く、故障発生頻度は高くなっている。適宜、修理か代替品を購入して対応している。

### 2. LMS(manaba)の管理運営

本学ではLMSとしてmanaba・responを運用し、全学の授業支援に活用している。日常業務としてコース(科目)作成・アカウント管理・問い合わせ対応を行っている。学生に対しては、本学の授業はmanaba・responと後述するOffice365サービスを利用できることが不可欠であるため、新入生に対して4月のオリエンテーションで優先的に説明を実施した。

manabaの2024年度の実績としては、約470のコース(授業等)を設置し、500以上のPVがあったものは300コース、小テストが実施されているものは147コースである。学生数の減少に伴いログイン数・ページビュー数は年々減少している。例年の傾向として、前期の利用が多くなっている。

2024度の新しい取り組みとしては、コンテンツが陳腐化して利用率が低下していた学内HPを廃止したため、教務関連・図書関連の学内全体で共有すべき情報・案内等をmanabaを通じて、構成員全体に行う体制を構築した。その他、入学予定者向けの講座(入学前教育)や、学生への連絡事項、非常勤講師を含む教員間の情報共有にも活用した。



### 3. マイクロソフトの Office365 サービスの活用

マイクロソフトとの包括ライセンス契約(OVS-ES)を 2024 年度も締結し、Office365 サービスの利用の他、マイクロソフト製品の主要なソフトウェアを学内すべてのパソコンに導入できるようにした。例年通り、学内に設置している教育研究用パソコン、事務用パソコン他において、クライアント OS や Office 製品の追加ライセンス費用は基本的に発生せず、さらに最新のバージョンを使うことが可能となった。2024 年度の実績としては、64 台の PC に対して包括ライセンスで契約しているソフトウェアのインストールを実施した。主に Office 系ソフトのインストールが多くなっている。また、最新の OS もインストールすることができるため、少し世代が古いが性能上問題がないパソコンの再利用にも大いに活用し、引き続き PC の新規購入費の低減につなげている。

さらに、本契約では Office365A3 で提供されている機能が利用可能となっている。本学の構成員（学生・教職員）であれば、Office 製品（Word/Excel/PowerPoint 等）の製品が個人の端末でも無償で利用できる環境を提供している。「教育・学術情報センター利用ガイド」（学内 Web に公開）において、詳細なインストール方法を解説している。2024 年度末では、約 700 名（教職員含む）が Office365 サービスを利用して個人利用の端末に Word や Excel を導入し、各自の課題・レポートの作成、業務に活用している。その他、学内の情報基盤として、メールサービスの Outlook(Exchange)を、チャットオンライン会議システムとして Teams を活用している。

利用促進のため、manaba を通じて利用案内を掲示すると共に、新入生に対しては、

オリエンテーションにおいて学生チューターや教職員とのコミュニケーションにも利用する Outlook・Teams の利用方法の説明を特に充実させた。

#### 4. 情報セキュリティの保全活動

##### (1) 情報セキュリティの啓蒙

学内情報資産の保全のため、情報セキュリティポリシーを元に、情報セキュリティを確保するための活動を継続して実施した。物理的対策としては、統合脅威管理装置 (UTM) 等セキュリティ関連機器、ウイルス対策ソフト等のサービスを活用した。幸い、2024 年度中に本学の情報資産が脅かされるようなセキュリティインシデントは発生しなかった。

学生に対して、新入生オリエンテーションや講義・実習において、担当教員と連携しながら情報セキュリティに関する啓蒙活動を行った。合わせて、廊下等へ貼り紙による情報周知を行った。

##### (2) 技術的なセキュリティ対策

基本的なセキュリティ対策としてとして統合脅威管理装置(UTM)を利用した境界防御を行いつつ、多様化する WEB 上での脅威に対応するため、学内で運用している WEB サーバについて、クラウド型の WAF を利用し、サイバー攻撃対策を継続して行っている。2 メールに対してもマイクロソフトの Exchange サービスのセキュリティ機能を活用し、メールの上の脅威に対応している

## 【8】IR活動

### 1. 各種アンケートの実施

#### (1) 授業アンケートの実施

授業アンケートについて、回収率等の結果概要は以下の通りであった。2024年度もLMS(manaba)の授業アンケート機能を利用して、WEB上で実施した。アンケートは授業の最終週に実施した。LMS(manaba)を普段から出席登録等で活用しているため、スムーズに実施することができた。

前年度と比較すると講義科目の回答率は減少し、実験・実習科目では前期は若干上昇したものの後期では減少した。

#### 講義科目

実施期	履修者数(全体)	回答数(全体)	回答率
2022年度前期	5,053	2,947	58.3%
2022年度後期	4,177	1,864	44.6%
2023年度前期	4,788	2,605	54.4%
2023年度後期	3,747	1,713	45.7%
2024年度前期	<b>4,853</b>	<b>2,312</b>	<b>47.6%</b>
2024年度後期	<b>3,979</b>	<b>1,694</b>	<b>42.6%</b>

#### 実験実習科目

実施期	履修者数(全体)	回答数(全体)	回答率
2022年度前期	2,306	1,251	54.2%
2022年度後期	1,793	810	45.2%
2023年度前期	1,902	1,103	58.0%
2023年度後期	1,513	726	48.0%
2024年度前期	<b>1,817</b>	<b>1,058</b>	<b>58.2%</b>
2024年度後期	<b>1,343</b>	<b>610</b>	<b>45.4%</b>

アンケート結果(個票)はLMS(manaba)経由で担当教員に返却している。さらにLMS(manaba)には教員から学生に対してフィードバックを行うことができるが、現時点であまり活用されていないのが継続的な課題である。

授業アンケートの集計結果は教務委員会へ報告し、授業内容の改善等に繋げている。この授業アンケートの集計結果を元にして、2024年度のベストティーティング賞の表彰対象となる教員が選定される。

#### (2) 入学生アンケート

2024年度入学生に対して、新入生アンケートを実施した。前年に同様に、新入生オリエンテーション期間にLMS(manaba)で実施を行った。

実施期間	2024年4月2日～4月17日	
回収枚数・回収率	166 / 174	95.4%

集計結果については、2024年7月の教授会にて報告し、学内グループウェア上で教職員に共有した。また、MicrosoftのOffice365サービスの一部であるPowerBI(BIツール)を導入して、IR活動で発生したデータの可視化や分析をより効果的に行えるようにした。

### (3) 卒業生アンケートの実施

2024年度卒業生、大学院修了生に対してアンケートを実施した。例年通りLMS(manaba)で実施した。学部卒業生に対してはアンケートへの協力の呼びかけを念入りに行ったため高い回収率となったが、大学院修了生(前期)の回収率は低かった。2024年度から実施した卒業記念パーティーの開始時間が実際にアンケートを回答する時間と重なっていた可能性があるため、実施タイミング等は次回以降の検討としたい。

実施期間	2025年3月15日～3月31日	
[学部]回収枚数・回収率	171 / 179	95.6%
[大学院前期]回収枚数・回収率	18 / 37	48.6%
[大学院後期]回収枚数・回収率	3 / 3	100.0%

### (4) 既卒生アンケートの実施

前年に引き続き、本学が加盟する大学IRコンソーシアムが実施している既卒生に対するアンケートに参加する形で、既卒生アンケートを実施した。

#### 実施概要

対象者：741名(2009/2014/2019年学部卒業生)

実施方法：大学で保有する卒業生の携帯電話番号宛のショートメール(SMS)にて案内を送信し、アンケート案内用の大学公式WEBサイトに誘導する。

アンケート集計はForms(Office365)で実施

任意の記名欄を用意する。個人情報保護規程に則り、利用目的・利用範囲を明示(同窓会からの連絡先のみ利用)する。

実施期間	2024年11月1日～2025年1月31日	
回収枚数・回収率	121 / 741	16.3%

実施概要について2025年3月の教授会で報告し、学内グループウェア上で実施結果を教職員に共有した。さらに、大学公式ホームページ上で、学外に公開した。

## 2. IR コンソーシアム活動

### (1) 学生調査の実施

本学が加盟している大学 IR コンソーシアムについて、コンソーシアムで提供される大学間ベンチマークを実施するための共通アンケートである「学生調査」を実施した。学生調査は、1年生調査と上級生調査に分かれており、それぞれ全員が必修となる後期の実験(実習)科目にて実施した。

対象学年	実施日	アンケート種別	回答対象者数	有効回答件数	回収率	備考
1年次	9/下旬～ 10/月上旬	1年生調査	171	148	86.5%	全員を対象に実施 実験科目（必修）にて実施
2年次 3年次	9/下旬～ 10/月上旬	上級生調査	319	294	92.2%	2年次、3年次ともに全員を対象 に実施 実験・実習科目（必修）にて実施

### (2) IR システムへのデータ登録、ベンチマーキングの実施

2023年度に実施した「学生調査」の結果を、大学 IR コンソーシアムが運用している IR システム(IRiS)に登録した(2024年5月)。これにより、会員校同士での相互比較が可能となった。相互比較の結果は2024年11月の教授会に報告し、また学内のグループウェアにも公開して教職員に対して周知した。本アンケートの結果の一部は、広報用資料等にも活用されている。

## 【9】地域連携・産官学連携の活動

本学は教学目標の一つとして「地域社会の発展と産業の振興」を掲げています。この教学目標の実現に向けて、地域連携・産官学連携推進室では、地元自治体・産業界・NPO法人等及び近隣地域の人々との連携を図りながら、本学の強みである「教育力」を活かした地域連携推進事業および「研究力」を活かした産官学連携推進事業に取り組んでいます。

2024年度は、地域や産業界の方々との連携の機会を増やすため、これまでの取組を踏襲しながらも、本学が地域との共生を目標として活動していることの周知及び大学への積極的な問い合わせを誘引する取組の実施を優先課題とし事業実施に努めました。

### 1. 小・中学校等の理科教育充実・推進事業（理系人材育成支援事業）

#### ①「長浜学びの実験室」の実施

長浜市内の小・中学生を対象に理科教育「長浜学びの実験室」を長浜市教育委員会と連携し、理科の教科書の内容を実際の実験体験を通じて理解してもらうことで、より実践的な科学的な思考や問題解決の方法に触れ、科学研究の楽しさについて伝えることを目的に実施しました。2024年度は本学教員が35校78講座（2023年度33校68講座）を実施しました。実際に受講した児童・生徒からは「実験結果をまとめる過程で、いくつかの新たな疑問が生まれたので、もう一つ上のランクの勉強につながるいい機会になった。」「今回の実験で、体のつくりが似ている点などを見て、人間などの生き物たちが同じ地球で生きていることが、改めて再発見でき、共存していくために考えながら過ごしていこうと思った。」などより具体的な感想が多く見受けられました。アンケート結果においては、「実験をしてどう思いましたか」という設問に94.2%が「楽しかった」と回答し、「これからもこのような実験を受けたいですか」には60.3%が「もっと受けたい」、38.5%が「受けても良い」と回答するなど、概ね肯定的な評価が得られました。これらの結果は、2016年の事業開始以降、右肩上がりに推移しています。

#### ②「夏休み！親子科学教室」の実施

長浜市内の小学生を対象とした「夏休み！親子科学教室」は、8月10日～12日の3日間で、児童79名・保護者57名・合計136名に参加していただきました。企画から運営に至るまで本学学生（Cell部）が主体となり実施しました。また、長浜北高校1年生11名が探究学習の一環として実験サポートとして参加しました。

従来は先着順での申し込みでしたが、2024年度より期間内の応募か抽選という形を取り、応募者すべての方に参加いただくことができました。

参加者を対象としたアンケート結果では「楽しかったか」という問いに対し「とても」とする肯定的な意見が100%と非常に高い評価を得ることができました。

#### ③「プログラミング講座」の実施

長浜市内の小学生のプログラミング的思考の育成を目的として小学校教員向け講座の実施には至りませんでした。長浜市及び教育委員会の方針を明確にさせていただくことが課題です。

#### ④その他の活動支援

「子ども学び座」を虎姫まちづくりセンター（Cell 部）と共同で実施しました。次年度以降も継続して地域の依頼に対応していきます。

## 2. 本学教員、事務職員および学生による地域振興を目的とした地域連携事業

### ①環びわ湖大学・地域コンソーシアム関連事業の支援

- 1) 大学地域連携課題解決支援事業に奈良篤樹准教授の「余呉の自然をもっと発信して、もっと繋がる～地域振興へ電子顕微鏡の挑戦」が採択（継続）され、余呉小中学校 6 年生を対象に文理融合型の連続授業を実施しました。
- 2) 2024 年度より新設された理系人材育成新事業「シガリケ」に Cell 部の「小学生を対象とした科学体験」が採択され、主に長浜市内の小学生 88 名に科学体験事業を実施しました。

### ②学生による長浜バイオ大学サテライトキャンパスを活用した地域連携活動の支援

学生担当及び学習支援センターと連携し、新入生オリエンテーションの一環として新入生サテライトキャンパスを長浜市街での活動や自習スペースとして利用することを促進しました。

フリーラウンジ利用を合わせて年間延べ 425 名の学生が利用しており、管理者である長浜まちづくり（株）様主催のワークショップなどにも参加しました。

## 3. 産業振興等を目的とした産官学連携事業

### ①本学の研究力・教育力の地域産業界への発信

#### (1) 本学における研究内容の地域企業への情報発信

本学教員の研究内容および教育内容、知的財産、研究機器を掲載した研究・教育シーズ集を発刊予定であったが、新学科設置に向けての過渡期となること等を考慮し、発刊を延期することになりました。

#### (2) 地域産業界等との連携関係の促進

研究推進機構事務室と連携し、企業からの相談案件について、本学としてできる限り応えられるように、全教員に向けて相談内容を伝え、協力を依頼しています。企業から 20 件の相談があり、2 件が成立し、共同事業を促進させることができました。

#### (3) KSAC や KSII などへの参画

産学連携をより強力に推進していくために、関西における起業家の裾野を拡大し、大学発スタートアップを連続的に創出していくことで世界に伍するスタ

ートアップ・エコシステムを構築することを目的とする「関西スタートアップアカデミア・コアリション（略称 KSAC）」に参画しました。

また、自律的かつ持続可能なイノベーション創出基盤の整備を目的とする「関西イノベーションイニシアティブ（略称 KSII）」に参画し、産業界との接点を強化するとともに、本学の大学発ベンチャーであるノベルジェン株式会社の技術シーズの提供を行いました。

新たに、技術的な課題を解決し事業化に結び付けたい企業と、先進的な研究成果をものづくり分野で実用化したい大学・高専が、お互いの得意分野や資産を活かして、協力しながらゴールを目指す「MOBIO 産学連携オフィス」に参画しました。現在 39 の大学・高専（2024 年 3 月末現在）が参画しており、大学からのシーズを企業に提供して事業化につなげていくことを目指します。

#### （4）ビジネスプランコンテストの滋賀テックプランターへの教員の参加

本学は、「滋賀発成長産業発掘・育成コンソーシアム」に加盟し、滋賀から世界を変えようとする研究者・技術者・起業家を育成する創業支援プログラムである「滋賀テックプランター」が主催するビジネスプランコンテストに 2017 年度より参画しています。これまで 5 チームのファイナリストが誕生し、2 社の大学発ベンチャー企業を創出しました。

2024 年度は次年度のエントリーに向けて本学のビジネスシーズを発掘し、事業化に向けた支援を行っています。

## 4. 生涯学習事業

### ①「長浜バイオ大学市民土曜講座」の実施

2024 年度はびわ湖東北部地域連携協議会と連携し、びわ湖東北部市民教養講座の一環として連携 5 大学（滋賀大学・滋賀県立大学・聖泉大学・滋賀文教短期大学・長浜バイオ大学）のリレー形式で実施しました。本学は下記 2 回を担当（内 1 回は雪の影響で中止）しました。

○山本 哲志 准教授 「あなたの血管年齢、測ってみませんか？」 受講者：21 名

○依田 隆夫 准教授 「コンピュータで行うタンパク質科学」 中止

## 5. その他の事業

### ①びわ湖東北部地域連携プラットフォーム事業への参画

2023 年度文部科学省私立大学等改革総合支援事業（タイプ 3・プラットフォーム型）に 6 年目として採択された本事業は、更に地域の連携を強靱なものとし、様々な地域課題の解決を図るため、活動を展開しました。本学はプラットフォーム発足時から幹事校を務めており、協議会および事務局の中核を担いました。

## ②産学連携人材育成コンソーシアムの立ち上げ

本学では、社会が求める人材を育成するため、社会および企業が求める教育を行うことを大学改革の一つとして位置付け、企業や自治体のみなさまのご協力を得て、産学連携人材育成コンソーシアムを12月に発足させました。

本コンソーシアムは、長浜バイオ大学と企業が連携してそれぞれの現場で求められている多様な問題の解決に必要な人材の育成に取り組むことを目的としており、今後、必要な人材育成プログラムを連携して開発し、学生および従業員の教育を実施していく計画です。

### 【連携分野】

- (1) 医療・創薬・健康
- (2) 農業生産・食品開発
- (3) 素材循環システム・環境保全
- (4) 生物系素材開発（木材、繊維、タンパク質、プラスチック等）
- (5) ロボティクス・AI・IT

### 【連携事項】

- (1) 人材育成の充実に関する課題の共有と教育プログラム化
- (2) 学生の育成に関する講師の派遣
- (3) 企業等からのリカレント教育の受け入れ
- (4) 企業および地域の振興推進や課題の解決に向けた連携教育事業
- (5) その他、目的達成のために必要な事業

## **【10】国際交流の活動**

### **1. 短期語学研修留学プログラム**

2020年度以降、新型コロナウイルス感染防止の観点から海外への短期留学を含む科目「海外英語研修」の開講を見合わせている。この「海外英語研修」は単に語学研修だけでなく、異文化を理解し国際交流を深めることができる科目である。過去に参加した学生の帰国後の報告会での成果からも学生の成長がうかがわれる。2026年度以降の再開を目指し、2025年度は準備をすすめていく。

### **2. 留学生の受け入れ**

2019年度までは、タイ王国のカセサート大学との学術交流協定に則り、工学部のコンピュータ工学科および材料工学科、農業産業学部からのインターンシップ生を受け入れていた。2020年度以降は新型コロナウイルス感染防止のため受け入れを実施することができなかったが、2024年度は1名の受け入れをおこなった。インターンシップ生の受け入れは、本学学生にとって英語での交流、異文化理解ならびにコミュニケーション形成に大いに役立つものであり、今後も継続を検討する。

## 【11】施設設備等

### 1. 既存施設の改修、設備の更新

大学開設時（2003年）から使用し、更新推奨年数を超えた高圧受変電設備については、不具合が起これば全館停電となり復旧にも時間を要し、本学の教育・研究に甚大な影響がでる高圧受電設備は年次計画で更新することとし、2024年度は高圧受変電設備の変圧器本体の高圧絶縁油の入替えおよび洗浄作業を実施した。今回の作業により、変圧器本体を延命させ、更新時期を延ばし経費抑制を図った。

また、館内で火災が発生した際に館内非常放送にて火災の周知および避難場所に速やかに移動するようにアナウンスを行う非常放送設備の更新、使用年限が切れた消火器の更新、命江館1階会議室の空調設備、事務室の室内空調機冷却水ポンプの更新工事を実施した。

### 2. 研究機器等の整備

本学における研究を一段と推進し、また、専門的な教育にも活かすため、動物や植物の組織、細胞の観察に用いられる最新型の「共焦点レーザー走査型顕微鏡」を2024年度私立大学等研究設備整備費等補助金の採択を受け整備した。

最新型の共焦点レーザー走査型顕微鏡を使用して大学院生や学部生の研究・学習活動の一環として現代のサイエンスイノベーション時代のバイオサイエンス研究を学ぶことはバイオサイエンス分野で活躍する人材の育成に役立ち、未来の医療や産業の発展を支えるイノベーションを担う人材の輩出に期待できる。

## 【12】SD活動

下記のテーマによる研修会、ワークショップなどの取り組みをSDに位置付け、全ての教職員がいずれかのSD活動に出席したことにより、教職員全般において教学や学生支援などに関する知識や能力が向上した。

- ・教職員研修会「ハラスメントのない快適な、教育研究環境を作ろう」  
(2024年9月10日)
- ・障害学生支援教職員研修会「本学障害学生支援の現状と課題」「『発達障害』の基本的な理解・支援を進めるために」(2025年2月17日)

## 【13】長浜バイオ大学保護者会

### 1. 保護者会定期総会の開催

(2024年6月1日から30日の間で書面表決により実施)

全ての保護者に対して議案書を郵送し、インターネット経由を含む書面表決により定期総会が開催された。(議決行使の保護者は203名)

## 2. 保護者懇談会の開催

(2024年6月15日)

本学にて全体説明会とグループ懇談会を実施した。全体説明では、教育理念や就職支援、学生による研究活動の紹介などを実施し、グループ別懇談会では「教育・学習、学生生活」「大学院」「就職」「臨床検査学コース」の4テーマを設け懇談会を実施した。

## 3. 役員会の開催

(2024年5月17日、2025年2月15日)

役員会を2回開催し、事業報告や計画、また予算などの審議を行った。

## 4. 助成事業

### (1) 学生自主活動助成事業

#### ① 学生自主活動団体への助成

本学学生等で構成する課外活動団体、自主活動グループの活動を支援するため、公募により募集を行い、書類審査およびプレゼンテーション審査の結果、次の4団体に活動費を助成した。

- ・吹奏楽部 : 地元の団体等から依頼を受ける演奏活動に対する助成
- ・米長滋彦の蜂蜜会 : 養蜂を通して地域の方々と交流する活動への助成
- ・自然科学研究会 : 県内外の大学と科学を通じ交流を深める活動への助成
- ・軽音部 : 音楽を通じて他大学や地域の方々と交流する活動への助成

#### ② 命洗祭実行委員会への助成

学園祭(2024年10月26、27日)を企画・運営する命洗祭実行委員会に活動費を助成した。

### (2) 資格取得助成事業

長浜バイオ大学が認める資格試験の合格者・成績優秀者に対して、受験料の50%を助成した。

### (3) 就職支援助成事業

長浜バイオ大学が実施する就職活動支援事業のうち、学生に配布する就職活動ハンドブックの購入、および公務員試験対策講座開催に係る費用の一部を助成した。

## 5. 新入生入学祝い品贈呈事業

長浜バイオ大学の学部新入生に対して、入学のお祝い品として「USBメモリ」を贈呈した。

## 6. 学部入学生支援事業

2024年度入学生一人あたりに対して、大学内の食堂・売店で使用可能な購入補助券3,000円分を助成した。

## 7. 積立金事業

### (1) 学生生活環境整備助成積立金

積立を行うとともに、積立金の一部を執行して、エントランス整備として使用した。

### (2) 卒業記念積立金

積立を行うとともに、積立金の一部を執行して、2024年度卒業パーティーの実施費用として使用した。

## 【14】高齢者大学校

### 1. 京都高齢者大学校

(座学講座は京都キャンパス、校外講座は京都市内・京都市近隣で開講)

2024年度は当初、前年度より規模を拡大(2023年度:24講座→2024年度:27講座)して募集を行った(新規講座:「総合歴史講座」「古都をめぐる自然観察会」「ステップアップデジタル写真講座」)。募集活動として、主に過去の受講生や資料請求者への受講案内の送付をはじめ、公共施設や図書館などに募集案内の配架依頼を行った。また、ホームページにも講座案内を掲載した。また、新規受講生を迎える対策の一環として、オープンキャンパスを実施(2024年2月15日~2月21日)した。(開催講座:「京の都の歴史と文化」「漢字学・漢字の謎」「バイオサイエンスの世界」「総合歴史講座」「みんなで楽しくうたごえ教室」「デジタル写真講座作品展示会」「基礎からの水彩画講座作品展示会」)

2024年1月12日の締切時点で10講座(「美術鑑賞講座」「京の職人」「宗教の世界」「山科の歴史・魅力探訪」「意外とおモロイぞっ!植物園(A・B)」「ぶらり京都のまちあるき(A・B・C・D)」)において定員を超える申し込みがあったため、これらの講座では受講生決定の抽選を行った。募集締切後も定員に達していない講座については募集を継続し、5講座(「百人一首で、京都を歩く」「意外とおモロイぞっ!植物園C」「古都をめぐる自然観察会」「京響メンバーによる大人の音楽教室」「ステップアップデジタル写真講座」)が定員に達した。一方で、「楽しいマジック」は、講師の都合で募集開始後に開講を取りやめた。

2024年度の講座登録状況は、開講を取りやめた「楽しいマジック」講座を含む全27講座に対して申込実数は666名(前年度646名)、講座登録延べ数は893講座(前年度887講座)と、いずれも前年度を上回る結果となった。申込実数は2013年度の開校以来、前年に引き続き最高の人数であった。

各講座の運営にあたっては、講座受講時の受講生の事故等に対応するためのレクリエーション保険と、事務局員の活動時の事故等に対応するためのボランティア保険にそれぞれ加入し、不測の事態に備えた。

講座独自の取り組みとして、「デジタル写真」「ステップアップデジタル写真」では2月に、「基礎からの水彩画」では7月と2月に、受講生の作品展を京都キャンパス

でそれぞれ開催した。「京響メンバーによる大人の音楽教室」では毎回「音楽のよろこび」通信を発行し、ホームページにも掲載した。「みんなで楽しくうたごえ教室」では、2024年6月30日に開催された「第47回上北なかままつり」（会場：京都市北区・北文化会館）に受講生有志が出演した。

#### 【2024年度開講講座】

時事問題を考える、日本近現代史、総合歴史、バイオサイエンスの世界へようこそ、京の都の歴史と文化、東アジアの文化芸術、漢字学・漢字の謎、美術鑑賞講座、京の職人－匠のしごと、宗教の世界、百人一首で京都を歩く、山科の歴史・魅力探訪、意外とオモロイぞっ！植物園（A・B・C）、古都をめぐる自然観察会、ぶらり京都のまちあるき（A・B・C・D）、みんなで楽しくうたごえ教室、京響メンバーによる大人の音楽教室、基礎からの水彩画（前期・後期）、初心者でもうまくなる！デジタル写真講座、ステップアップデジタル写真講座

## 2. 京都社会人大学校北近畿校（福知山市で開講）

2024年度は、前年度の自然科学講座とすご技講座を「北近畿探訪講座」として統合させ、前年度から継続する5講座を合わせた計6講座で募集を行った。主な募集活動として、過去の受講生や資料請求者への募集案内の送付や、公共施設などへの募集案内の配架依頼を実施し、地元マスコミ報道を活用した募集活動も展開した。また、ホームページにも講座案内を掲載した。

2024年度の講座登録状況は、全6講座に対して申込実数は156名（前年度152名）、講座登録延べ数は189講座（前年度182講座）であった。申込実数は2017年度の開校以来、前年に引き続き最高の人数であった。

各講座の運営にあたっては、京都高齢者大学校と同様に、受講生の講座受講時や事務局員の活動時の事故等に対応するためのレクリエーション保険とボランティア保険にそれぞれ加入し、不測の事態に備えた。

北近畿校独自の取り組みとして、講座の翌月に各講座の概要と受講生のひとこと感想などを掲載した「北近畿校通信」を発行し、全受講生への郵送と、およびホームページにも掲載した。2024年度は合計9号を発行し、ほぼ毎月発行することができた。また、講座独自の取り組みとして、「寄席芸鑑賞講座」では講座最終回（12月）に神戸新開地喜楽館（神戸市）へ出かけ、本校での担当講師を含む落語家が実際の高座で演じる上方落語を鑑賞するツアーを実施した。

#### 【2024年度開講講座】

時事問題、寄席芸鑑賞講座、写真講座、歴史講座、北近畿探訪講座、漢字学講座

2025年度 長浜バイオ大学 入学者統計資料(過去5ヶ年)

2025年5月1日

学科 コース	入試方式	募集人員					志願者数					受験者数					合格者数					入学者数					
		25年度	24年度	23年度	22年度	21年度	25年度	24年度	23年度	22年度	21年度	25年度	24年度	23年度	22年度	21年度	25年度	24年度	23年度	22年度	21年度	25年度	24年度	23年度	22年度	21年度	
フロンティアバイオサイエンス学科	指定校特別推薦 (前期/後期)	公募制推薦に含					6	12	8	14	6	13	12	8	14	6	13	12	8	14	6	13	12	8	14	6	13
	一般公募制推薦AB女子枠	22	22	22	18	16	65	89	114	143	144	64	87	110	137	138	56	75	93	114	98	3	4	3	4	10	
	オープンキャンパス参加型	17	18	18	6	6	17	17	20	13	15	17	17	20	13	14	16	16	19	13	14	5	10	11	9	9	
	オンライン模擬授業型 模擬授業参加型						4	10	8	9	9	4	9	7	9	9	3	8	7	9	8	2	4	5	5	2	
	多面評価型/専門総合学科枠	3	2	2	2	2	2	2	3	2	2	2	2	3	2	2	2	2	3	2	2	1	0	3	2	1	
	前期AB・前期AB共通テスト併用型	30	30	34	43	37	243	354	284	303	496	242	334	278	286	473	195	257	195	252	305	18	24	22	24	14	
	中期・中期共通テスト併用型	-	-	3	3	4	-	-	18	14	38	-	-	18	12	31	-	-	12	8	26	-	-	2	0	3	
	後期 (2教科型/多面総合評価型/総合記述)	2	2	2	2	4	4	11	12	7	14	1	7	12	3	10	1	6	9	3	7	0	3	3	0	5	
	共通テスト利用前期/中期/後期	14	14	7	14	13	76	78	57	74	71	76	77	57	74	71	61	58	42	53	59	1	3	4	0	2	
	社会人	若干名(上記に含む)					0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
留学生	若干名(上記に含む)					6	10	3	8	16	5	10	3	8	14	5	7	3	8	12	3	6	1	5	8		
計	88	88	88	88	88	429	579	533	579	818	423	551	522	550	775	351	437	397	468	544	45	62	68	55	67		

臨床検査学コース	指定校特別推薦	公募制推薦に含					2	9	3	1	4	5	9	3	1	4	5	9	3	1	4	5	9	3	1	4	5
	一般公募制推薦AB女子	8	8	8	5	5	21	17	11	40	20	21	16	11	39	20	13	11	8	29	13	2	2	4	10	5	
	オープンキャンパス参加型 オンライン模擬授業型	2	2	2	1	-	11	12	7	6	-	10	12	7	6	-	9	9	6	5	-	3	7	2	2	-	
	前期AB	12	12	10	14	13	52	65	30	43	62	51	63	30	41	62	44	48	20	33	43	6	7	7	3	7	
	中期	-	-	2	2	2	-	-	4	5	3	-	-	4	4	3	-	-	2	3	2	-	-	2	2	2	
	後期	2	2	2	1	2	0	1	2	2	3	0	1	2	1	3	0	1	1	0	3	0	0	0	0	0	
	共通テスト利用 前期/中期/後期	6	6	6	7	6	36	42	17	22	37	36	42	17	22	37	24	26	14	16	30	4	3	4	1	3	
	社会人	若干名(上記に含む)					0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	計	30	30	30	30	30	129	140	72	122	130	127	137	72	117	130	99	98	52	90	96	24	22	20	22	22	

フロンティアバイオサイエンス学科 合計	118	118	118	118	118	558	719	605	701	948	550	688	594	667	905	450	535	449	558	640	69	84	88	77	89
---------------------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	----	----	----	----

バイオデーターサイエンス学科	指定校特別推薦	公募制推薦に含					4	5	7	6	5	10	5	7	6	5	10	5	7	6	5	10	5	7	6	5	10
	一般公募制推薦AB女子	17	17	17	15	13	63	52	86	106	96	63	50	82	100	90	58	45	73	89	77	4	4	3	4	6	
	オープンキャンパス参加型 オンライン模擬授業型 模擬授業参加型	12	13	13	6	6	5	9	2	6	12	5	9	2	6	12	5	9	2	6	11	2	6	1	4	8	
	多面評価型/専門総合学科枠						2	5	1	2	1	2	5	1	2	1	2	5	1	2	1	0	3	0	2	1	
	前期AB・前期AB共通テスト併用型	25	25	26	36	32	170	257	197	220	365	166	246	191	205	349	134	192	149	179	284	7	10	11	11	12	
	中期・中期共通テスト併用型	-	-	3	2	3	-	-	16	14	27	-	-	16	12	23	-	-	13	7	20	-	-	4	2	3	
	後期 (2教科型/多面総合評価型/総合記述)	2	2	2	1	3	3	8	11	9	19	0	4	11	5	14	0	4	10	5	11	0	1	0	2	5	
	共通テスト利用 前期/中期/後期	11	11	7	8	7	36	45	37	45	27	36	45	37	45	27	21	34	29	32	19	1	3	3	0	2	
	社会人	若干名(上記に含む)					0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	留学生	若干名(上記に含む)					1	4	5	0	6	1	3	5	0	5	1	3	4	0	5	1	1	2	0	3	
計	70	70	70	70	70	285	387	361	408	563	278	369	351	381	531	226	299	287	326	438	20	35	30	31	50		

※24年度から名称変更

アニマルバイオサイエンス学科	指定校特別推薦	公募制推薦に含					2	10	8	5	6	11	10	8	5	6	11	10	8	5	6	11	10	8	5	6	11
	一般公募制推薦AB女子	12	12	12	10	8	80	92	91	140	124	80	89	85	134	120	67	69	70	102	31	7	8	10	10	7	
	オープンキャンパス参加型 オンライン模擬授業型 模擬授業参加型	12	12	12	4	4	22	15	22	17	15	21	15	22	17	14	21	15	18	16	14	9	9	12	13	11	
	多面評価型/専門総合学科枠						7	6	8	6	5	6	6	8	6	5	6	6	7	3	4	3	5	5	2	2	
	前期AB・前期AB共通テスト併用型	15	15	13	19	17	199	309	280	222	354	197	291	270	209	339	155	188	144	162	144	24	19	20	15	9	
	中期・中期共通テスト併用型	-	-	3	2	3	-	-	19	12	33	-	-	19	9	27	-	-	7	4	11	-	-	1	0	1	
	後期 (2教科型/多面総合評価型/総合記述)	1	1	1	1	3	6	12	10	7	10	6	8	10	3	5	6	6	5	2	1	1	2	0	0	0	
	共通テスト利用 前期/中期/後期	8	8	7	12	11	46	71	50	52	54	46	71	50	52	54	36	53	32	27	32	4	3	3	2	1	
	社会人	若干名(上記に含む)					0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	留学生	若干名(上記に含む)					3	5	4	4	8	3	5	4	3	8	2	4	2	3	8	1	1	1	3	4	
計	50	50	50	50	50	373	518	492	473	614	369	493	476	445	583	303	349	292	327	256	59	55	59	53	46		

学部 計	238	238	238	238	238	1,216	1,624	1,458	1,582	2,125	1,197	1,550	1,421	1,493	2,019	979	1,183	1,028	1,211	1,334	148	174	177	161	185
------	-----	-----	-----	-----	-----	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-----	-------	-------	-------	-------	-----	-----	-----	-----	-----

※3年次編入学試験を除く

博士課程前期課程	学内	36	36	36	36	36	47	52	64	71	58	47	51	62	71	57	47	49	57	67	56	35.0	35	42	50	47
	一般・留学生・社会人						3	3	5	3	1	3	3	5	3	0	3	3	5	3	0	3.0	3	4	3	0
	計	36	36	36	36	36	50	55	69	74	59	50	54	67	74	57	50	52	62	70	56	38.0	38	46	53	47

博士課程後期課程	学内	5	5	5	5	5	4	1	1	1	1	4	1	1	1	1	4	1	1	1	1	4.0	1	1	1	1
	一般・留学生・社会人						1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1.0	0	0	0	0
	計	5	5	5	5	5	5	1	1	1	1	5	1	1	1	1	5	1	1	1	1	5.0	1	1	1	1

※大学院入試(10月入学)を除く

## 2024年度 研究支援活動一覧

	学校名	対象	内容	担当教員	入学者
1	八日市高校	自然科学部	延命公園および太郎坊における酵母の分布調査と活用法の検討	向由紀夫	2
2	彦根東高校	GS部 地学班	彦根・米原地域の堆積岩に含まれる放射線の観察と同定および岩石成分の元素分析	奈良篤樹 中村卓 和田修一 田邊瑠里子 上野祥子	2
3	立命館守山高校		ビタミンKの食品からの除去	原口大生	0
4	守山北高校	生徒会	ショウガ成分の分析	河合靖	1
5	大阪高校	探究コース 科学探究部	淡水魚ムギツクに特異的なプライマーのデザイン	和田修一 齊藤修	1
6	虎姫高校	物理班	ダイラタンシーによる衝撃吸収について	川瀬雅也	0
		物理班	ヨーヨー発電の効率をあげるために	依田隆夫	
		生物班	オリヅルランのカビの抑制について	今村綾	
		生物班	アリの筋力と温度の関係	和田修一	
		化学班	ポリグルタミン酸の架橋構造による銅イオンの吸着	河合靖	
		化学班	多糖類の架橋構造による銅イオンの吸着		
		数学班		西郷甲矢人	

## 2024年度 模擬講義一覧

	学校名	対象	人数	内容	担当教員	入学者
1	近江兄弟社高校	高1	16	動く遺伝子から探る生命と病、進化の謎	大島一彦	1
2	長浜北高校	高2	76	生き物をつくるバイオ技術	石川聖人	10
3				希少動物サンショウウオ保護の最前線	齊藤修	
4	虎姫高校	高1	4	ウィルスって役に立つ？	伊藤正恵	0
5			7	サイborgの作り方	清水正宏	
6			2	自分の強み、弱みを理解する	坂井伸彰	
7	河瀬中学校	中2	40	オーストラリアのユニークな動物から生命現象を分子レベルで学ぶ	堀部智久	
8			40			
9	桂高校 <sup>※</sup>	高1	79	環境変化に適応して成長する植物	今村綾	1
10	安曇川中学校 <sup>※</sup>	中3	11	生物から学ぶものづくり	中村卓	
11	高島高校	高2	29	マイクロプラスチック問題と藻類除去技術による問題解決	小倉淳	1
12				食料問題を解決する昆虫利用型食糧生産システム		
13	安曇川高校 <sup>※</sup>	高2	13	臨床検査ってなあに	山本哲志	0
14	敦賀高校 <sup>※</sup>	高1,2	15	臨床検査ってなあに	山本哲志	0
15	虎姫高校	高1	60	大きく変貌するサイエンスイノベーション時代で活躍するために	蔡晃植	0
16	大谷高校 <sup>※</sup>	高1,2	40	ウィルスって役に立つ？	伊藤正恵	0
17	天王寺学館高校 <sup>※</sup>	高1~3	50	生物から学ぶものづくり	中村卓	0
18	洛北高校	高1	80	医療や農業に生かせる遺伝子の知恵	岩本昌子	0
19			80			

※ 2024年度新規依頼校

## 2024年度 実験・実習講座一覧

	学校名	対象	人数	内容	担当教員	入学者
1	大垣東高校	高3	11	手動PCRでブタの品種鑑定をしよう	高大連携	5
2	北嵯峨高校	高2	15	PCRによる食肉の種類鑑定	高大連携	0
3	愛知高校	高3	23	DNA鑑定で犯人を探せ	高大連携	0
4	桑名高校	高2	40	PCRによる食肉の種類鑑定	高大連携	0
5	大垣西高校	高1~3	16	PCRによる食肉の種類鑑定	高大連携	0
6	大垣南高校 <sup>※</sup>	高2,3	26	手動PCRでブタの品種鑑定をしよう	高大連携	0
7	高田高校	高3	16	手動PCRでブタの品種鑑定をしよう	高大連携	0
8	明星高校（大阪）	高1	7	PCRによる細菌の種の同定	長谷川慎	1
9	米原高校	高2	40	PCRと制限酵素でブタの品種鑑定をしよう	高大連携	1
10	鴨沂高校	高3	26	DNA鑑定で犯人を探せ	高大連携	0
11	河瀬中学校	中2	40	脊椎動物の解剖と観察	宇佐美昭二	
12			40			
13	虎姫高校	高2	不明	実験データの統計分析	塩生真史 福崎優太	0
14	磯城野高校	高2	17	PCRによる食肉の種類鑑定	高大連携	0
15	桃山高校	高3	16	手動PCRでブタの品種鑑定をしよう	高大連携	0
16	鴨沂高校	高3	19	DNA鑑定で犯人を探せ	高大連携	0
17	稲枝中学校 <sup>※</sup>	中2	18	口腔上皮細胞の観察	大橋英治 宇佐美昭二	
18	河瀬中学校	中2	40	データサイエンス入門講座	塩生真史 白井剛 嶺井隆平	
19			40			
20	明星中学校（大阪）	中2	61	アフリカツメガエルの解剖	高大連携	
21	虎姫高校	高1,2	16	PCRと制限酵素でブタの品種鑑定をしよう	高大連携	0
22	岐阜東高校 <sup>※</sup>	高2	32	水棲生物の解剖とつくりの比較	高大連携	0
23	郡山高校	高1,2	23	PCRによる食肉の種類鑑定	高大連携	0

<sup>※</sup> 2024年度新規依頼校

## 2024年度 模擬授業一覧

	学校名	対象	講座名	担当職員	参加人数
1	泉大津	2年生	模擬授業（環境バイオ）	福井 充	2
2	岐阜東	2年生	模擬授業（生物・バイオ）	福井 充	26
3	いちりつ	2年生	模擬授業（生命環境・農学）	福井 充	23
4	比叡山	2年生	模擬授業（バイオサイエンス）	福井 充	6
5	福知山	1年生	模擬授業（農・環境・バイオ）	福井 充	13
6	奈良県立大学附属	1年生	模擬授業（環境・バイオ）	福井 充	10
7	玉川	2年生	模擬授業（バイオ）	福井 充	6
8	京都精華学園	2年生	模擬授業（農学・環境・バイオ）	福井 充	6
9	尼崎稲園	2年生	模擬授業（環境・バイオ）	福井 充	17
10	大阪	1・2年生	模擬授業（理学）	福井 充	18
11	伊丹北	1年生	模擬授業or大学説明会（環境・バイオ）	福井 充	8
12	長浜北	1年生	模擬授業（環境・バイオ）	福井 充	6
13	近江	2年生	模擬授業（農学・環境・バイオ）	福井 充	5
14	鴨沂	1年生	模擬授業（農学）	福井 充	14

## 2024年度 分野別・職業別説明会一覧

	学校名	対象	講座名	担当職員	参加人数
1	尼崎稲園	1年生	職業人講話（環境・バイオ）	押谷 憲治	23
2	西舞鶴	1年生	職業別説明会（農・環境学）	福井 充	7
3	桜塚	1年生	分野別説明会（農学・環境・バイオ）	押谷 憲治	8
4	桑名西	2年生	分野別説明会（応用生物学と環境生物科学）	福井 充	7
5	八幡	1年生	分野別説明会（理学・農学・バイオ・生物学系）	真田 茜	26
6	箕面	1年生	職業別説明会（農学・バイオに関わる仕事）	福井 充	9
7	栗東	2年生	分野別説明会（農学・バイオ）	明川 浩之	2
8	能登川	2年生	分野別説明会（農・環境）	真田 茜	3
9	いちりつ	1年生	分野別説明会（生命環境・農学）	押谷 憲治	26
10	いちりつ	1年生	分野別説明会（理学）	押谷 憲治	38
11	甲西	1年生	職業別説明会（バイオ・環境）	福井 充	9
12	大阪	2年生	分野別説明会（理学①）	押谷 憲治	9
13	東淀川	2年生	分野別説明会（バイオ学）	真田 茜	8
14	守山	1年・中学3年生	職業人講和（バイオ）	福井 充	50
15	吹田東	1年生	分野別説明会（理学・農学）	押谷 憲治	30
16	大阪青凌	1年生	分野別説明会（生物学・バイオ学）	明川 浩之	45
17	米原	1年生	職業説明&分野説明（バイオサイエンス【農学】）	福井 充	8
18	比叡山	1年生	分野別説明会（環境・バイオ・農学）	真田 茜	21
19	第一学院	1・2年生	分野別説明会（環境・バイオ）	明川 浩之	4
20	花園	1年	分野別説明会（農学・環境）	明川 浩之	8
21	彦根翔西館	2年生	分野別説明会（バイオサイエンス）	真田 茜	8
22	光泉カトリック	2年生	分野別説明会（生物・バイオ学）@ピアザ淡海	明川 浩之	17
23	大垣養老	2年生	分野別説明会（農・応用生物）	福井 充	9
24	八幡工業	1・2年生	分野別説明会（環境・バイオ）	山下 晴子	7
25	神戸北	1年生	分野別説明会（環境・バイオ）	明川 浩之	5
26	大垣養老	1年生	分野別説明会（環境・バイオ）	福井 充	5
27	尼崎（県立）	1年生	分野別説明会（農学）	真田 茜	8
28	尼崎（県立）	1年生	分野別説明会（バイオ）	真田 茜	7
29	光泉カトリック	1年生	分野別説明会（農学・環境学）	真田 茜	6

## 2024年度 分野別・職業別説明会一覧

30	岐阜農林	2年生	分野別説明会（生物学B）	福井 充	14
31	羽島北	1年生	分野別説明会（農学（応用生物））	押谷 憲治	6
32	伊香	2年生	分野別説明会（農・バイオ・環境）	押谷 憲治	1
33	伊香	1年生	職業体験（農・バイオ）	福井 充	1
34	尼崎（県立）	2年生	分野別説明会（環境・バイオ）	明川 浩之	2
35	彦根総合	1年生	分野別説明会（環境・バイオ・農学）	福井 充	3
36	関西大倉	1年生	分野別説明会（バイオサイエンス学）	福井 充	39
37	光泉カトリック	1年生	分野別説明会（データサイエンス）	福井 充	23
38	甲南	1年生	職業説明（農業・植物に携わる仕事）	福井 充	4
39	甲南	1年生	職業説明（動物に携わる仕事）	福井 充	23
40	甲南	1年生	職業説明（環境・バイオに携わる仕事）	明川 浩之	8
41	農業	1年生	分野別説明会（農学）→（環境・バイオ）	明川 浩之	24
42	滋賀学園	1年生	職業別説明会（自然・環境・バイオ・バイオサイエンス・医療）	福井 充	13
43	滋賀学園	1年生	職業別説明会（動物）	福井 充	3
44	彦根総合	1年生	分野別説明会（理学・工学）	福井 充	2
45	飛鳥未来きぼう	1・2年生	分野別説明会（環境・バイオ）	山下 晴子	2
46	河瀬	1年生	分野別説明会（理学・農学・バイオ・生物学系）	福井 充	29
47	大津	1年生	分野別説明会（農学・環境・バイオ）	真田 茜	11
48	甲南	1年生	職業別体験（医療技術に携わる仕事）	山本 哲志	
49	伊吹	1・2年生	分野別説明会（環境・バイオ）	福井 充	3
50	甲南	2年生	分野別説明会（バイオ・環境）	山下 晴子	4
51	第一学院	1・2年生	分野別説明会（農学）	明川 浩之	4

## 2024年度 大学説明会一覧

	高校名	対象	講座名	担当職員	参加人数
1	近江	2年生	大学説明会	押谷 憲治	9
2	彦根総合	3年・保護者	大学説明会	押谷 憲治	2
3	豊島	3年生	大学説明会	明川 浩之	1
4	八洲学園	全学年	大学説明会	明川 浩之	1
5	玉川	3年生	大学説明会	真田 茜	1
6	滋賀短期大学附属	3年生 +3年生保護者	大学説明会	真田 茜	1
7	JCL外国語	1・2年生	大学説明会	押谷 憲治	12
8	甲南	3年生	大学説明会	明川 浩之	6
9	水口	2・3年生	大学説明会	明川 浩之	2
10	伊香	3年生	大学説明会	押谷 憲治	1
11	農芸	2・3年生	大学説明会	明川 浩之	7
12	高島	3年生	大学説明会	明川 浩之	1
13	彦根工業	3年生	大学説明会	真田 茜	1
14	大阪	3年生	大学説明会	明川 浩之	2
15	京都文教	3年生	大学説明会	明川 浩之	2
16	大阪青凌	全学年	大学説明会	真田 茜	2
17	彦根総合	2年生	大学説明会	明川 浩之	5
18	京都翔英	2・3年生	大学説明会	明川 浩之	3
19	大垣西	全学年 +保護者	大学説明会	真田 茜	7
20	大垣商業	全学年 +保護者	大学説明会	真田 茜	4
21	関西語言学院	留学生	大学説明会	真田 茜	5
22	岐阜聖徳学園	3年生	大学説明会	真田 茜	4
23	甲西	全学年	大学説明会	明川・真田	5
24	伊吹	全学年	大学説明会	真田・山下	5
25	石部	2年生	大学説明会	真田 茜	4
26	瀬田工業	2年生	大学説明会	明川 浩之	12
27	大阪青凌	3年生保護者	大学説明会	明川 浩之	1
28	長浜北星	3年生	大学説明会	真田・山下	2
29	第一学院	全学年	大学説明会	明川 浩之	1
30	飛鳥未来	1・2年生	大学説明会	明川 浩之	3
31	神戸東洋日本語学院	留学生	大学説明会	押谷 憲治	9
32	長浜北	1・2年生	大学説明会	①押谷 ②真田 ③山下	26
33	木津	2年生	大学説明会	明川 浩之	3
34	堅田	2年生	大学説明会	山下 晴子	2
35	大垣養老	1・2年生 +保護者	大学説明会	山下 晴子	12
36	農業	2年生	大学説明会	山下 晴子	6

## 2024年度 大学説明会一覧

37	洛陽総合	2年生	大学説明会	山下 晴子	1
38	守山北	2年生	大学説明会	山下 晴子	4
39	滋賀短期大学附属	2年生	大学説明会	山下 晴子	3
40	鹿島学園	1・2年生	大学説明会	明川 浩之	3
41	おおぞら高等学院	1・2年生 +保護者	大学説明会	明川 浩之	2
42	湖南農業	1年生	大学説明会	明川 浩之	6
43	尼崎（県立）	2年生	大学説明会	真田 茜	1
44	長浜農業	1年生	大学説明会	福井 充	7